

# Sun Java™ System Messaging Server リリースノート

バージョン 6 2004Q2

Part No. 817-7094

---

このリリースノートでは、Sun Java System Messaging Server 6 2004Q2 のリリース時点における重要な情報について説明します。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題と制限、およびその他の情報について説明します。Messaging Server 6 の使用を始める前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、Sun Java System マニュアル Web サイトから入手できます。<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja> ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- [Messaging Server 6 2004Q2 について](#)
- [最新情報](#)
- [システム要件](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [Communications Express](#)
- [問題のレポートとフィードバックの提供方法](#)
- [Sun が提供しているその他の情報](#)

このリリースノートにあるサードパーティの URL を参照すると、追加および関連情報を入手できます。

---

## 注

Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料についてサンは推奨しているわけではなく、サンはいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、サンは直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

---

---

# Messaging Server 6 2004Q2 について

Messaging Server は、ユーザー数を数千から数百万に拡大することができる、高性能で安全性の高いメッセージングプラットフォームです。ユーザー認証、セッション暗号化、およびスパムやウイルスを防ぐための適切なコンテンツフィルタリングによって通信の完全性を保証する、幅広いセキュリティ機能を備えています。Messaging Server をご使用いただくと、企業やサービスプロバイダは、信頼性の高いセキュアなメッセージングサービスを従業員、パートナー、顧客のコミュニティ全体に提供できます。

Messaging Server は、オープンなインターネット標準を使用して、電子メールに対するニーズを満たすあらゆる企業とメッセージングホストに柔軟性に富む強力なソリューションを提供します。

この節では、次の項目について説明します。

- [最新情報](#)
- [システム要件](#)

---

## 最新情報

この節では、次の項目について説明します。

- [インストールの変更](#)
- [新しい機能](#)
- [推奨されなくなった機能](#)

## インストールの変更

『Messaging Server インストールガイド』は廃止されました。

Messaging Server 6 2004Q2 を初めてインストールする場合は、『Sun Java™ Enterprise System インストールガイド』(<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)を参照してください。

Messaging Server 6 2003Q4 を Messaging Server 6 2004Q2 にアップグレードする場合は、『Sun Java™ Enterprise System インストールガイド』(<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)の第8章「Java Enterprise System 2003Q4 からのアップグレード」を参照してください。

Messaging Server の以前のバージョンを Messaging Server 6 2004Q2 に移行する場合は、『Sun Java™ System Messaging Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>) のアップグレード情報を参照してください。LDAP ディレクトリのデータを Schema 1 から Schema 2 に移行する場合は、Messaging Server をアップグレードする前に、『Sun Java™ System Communications Services Schema Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-5701>) を参照してください。ディレクトリ移行機能の概要については、「スキーマ移行ユーティリティ」を参照してください。

## 新しい機能

この節では、今回のリリースで Messaging Server に追加された新機能について説明します。

- [製品名の変更](#)
- [新しいデータベースのバージョン](#)
- [Communications Express クライアントソフトウェア](#)
- [Web クライアント用のスペイン語辞書](#)
- [スキーマ移行ユーティリティ](#)
- [メッセージストアの拡張](#)
- [MTA の拡張](#)

### 製品名の変更

Sun ONE Messaging Server の名称は、6 2004Q2 リリースから Sun Java™ System Messaging Server に変更されました。

### 新しいデータベースのバージョン

Messaging Server 6 2004Q2 リリースは、Sleepycat Berkeley DB バージョン 4.2 を使用しています。

アップグレードパッチを使用して、Messaging Server 6 2003Q4 をバージョン 6 2004Q2 にアップグレードすると、Berkeley DB はバージョン 3.2.9 からバージョン 4.2 に自動的にアップグレードされます。

---

**注** この注意事項は、Messaging Server を以前のバージョンから Messaging Server 6 2004Q2 にアップグレードするユーザーを対象にしています。

Messaging Server 6 2004Q2 を起動すると、Messaging Server ソフトウェアは最初にデータを更新します。データが更新されると、Berkeley DB を以前のバージョン (3.2.9 など) に戻すことができなくなります。

---

## Communications Express クライアントソフトウェア

Messaging Server は現在、2 種類のクライアントユーザーインターフェース (UI) をサポートしています。

- Messenger Express
- Sun Java™ System Communications Express

Communications Express は、今回のリリースで追加された新しいユーザーインターフェースです。この先、Messenger Express ユーザーインターフェースに新しい機能は追加されません。新しい Communications Express ユーザーインターフェースが追加されたため、Messenger Express の使用は推奨しません。Sun Microsystems, Inc. は Messenger Express を廃止する時期を発表する予定です。

Communications Express をインストールする方法は、Messaging Server をインストールする方法によって異なります。次のシナリオが考えられます。

- Sun Java Enterprise Server インストーラを使用して、Messaging Server を初めてインストールする場合は、インストールプログラムパネルで Messaging Server と Communications Express を選択します。Communications Express は、Messaging Server をインストールしても自動的にインストールされないため、インストールするコンポーネントとして個別に指定する必要があります。
- Messaging Server 6 2003Q4 がすでにインストールされている場合は、パッチ追加プロセスを使用して、Messaging Server 6 2004Q2 にアップグレードします。Messaging Server を 2004Q2 にアップグレードした後、Sun Java Enterprise System インストーラを使用して、Communications Express コンポーネントをインストールします。

Messaging Server と Communications Express は、設定プログラムが異なるため、インストールを完了してから、各プログラムを個別に実行する必要があります。

新しいユーザーインターフェースのリリースノート情報の詳細は、以下を参照してください。

- [Communications Express](#)

Communications Express には、管理、配備、カスタマイズガイドやオンラインヘルプがあります。Communications Express 関連マニュアルの一覧については、Messaging Server 6 2004Q2 のマニュアルを参照してください。

## Web クライアント用のスペイン語辞書

Messaging Server の Communications Express と Messenger Express クライアントユーザーインターフェースでは、スペイン語の辞書が使用できるようになりました。この機能を使用すると、スペイン語のメッセージをスペルチェックできます。

## スキーマ移行ユーティリティ

新しいスキーマ移行ユーティリティ `commdirmig` は、LDAP ディレクトリのデータを Sun Java™ System LDAP Schema 1 (Schema 1) から Sun Java™ System LDAP Schema 2 (Schema 2) に移行します。

Messaging Server 6 2004Q2 では、Schema 1 または Schema 2 を使用するように設定できます。スキーマ移行ユーティリティには次の利点があります。

- Sun Java™ System Identity Server との統合 - シングルサインオン (SSO) を提供
- ユーザー管理ユーティリティ `comadmin` - LDAP ディレクトリを設定
- 単一のディレクトリ情報ツリー (DIT) - Sun Java™ Enterprise System の全製品を統合

スキーマ移行ユーティリティは、次のタスクを実行します。

- 2つのツリーから成る DIT 構造を単一構造に変換
- Identity Server のオブジェクトクラス、属性、ACI をドメインとユーザーエントリに追加。これらの属性により、Identity Server が LDAP エントリに対してシングルサインオン (SSO) 認証を実行可能

このユーティリティを使用して、LDAP ディレクトリのデータを Schema 1 から Schema 2 に移行する詳細については、『Sun Java™ System Communications Services Schema Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-5701>) を参照してください。

## 管理コンソール

今回のリリースでは、Messaging Server 管理コンソールが i18n 互換になりました。

## メッセージストアの拡張

メッセージストアに次の機能が追加されました。

- `mkbackupdir` ユーティリティは、クラスタ化した HA 配備の各ホストに `imsasm` スクリプト (ディレクティブ) を実行します。たとえば、配備でアプリケーションを 2 つの物理的なホストにクラスタ化すると、各ホストは `imsasm` スクリプトのインスタンスを個別に実行できます。`imsasm` の個々のインスタンスは、ローカルホストに常駐するディレクトリの一部を対象として、データストリームを作成して解釈します。

`-a <asm>` オプションが `mkbackupdir` ユーティリティに追加されました。`<asm>` には、`imsasm` スクリプトの名前を指定します。

- `mkbackupdir` ユーティリティは、マルチスレッドプロセスとして実行されるため、パフォーマンスが向上します。`-t <threadnumber>` オプションが `mkbackupdir` に追加されました。`threadnumber` には、実行中のスレッド数を指定します。
- `imexpire` ユーティリティに `-v` オプションが追加されました。このオプションを指定すると、詳細なログを表示できます。
- `imexpire` ユーティリティには、メッセージレベルとメールボックスレベルのログ出力を指定できます。`-v` オプションを指定すると、個々のメールボックスやメッセージごとに、古いメッセージをメッセージストアから削除した日時を記録できます。
- セッションのロック機能が `imexpire` ユーティリティに追加されました。

- `imquotacheck` ユーティリティは、`-d` オプションで無効なドメインが指定されると、エラーを記録します。また、`-i` オプションと `-d` オプションを同時に指定すると、`imquotacheck` は `-i` オプションを無視します。
- `stored` ユーティリティに `-r` オプションが追加されました。このオプションを指定すると、古い一時データベースファイルを削除できます。
- `watcher` デーモンにログ保守機能とタイムスタンプが追加されました。
- `imsched` ユーティリティにデバッグオプションが追加されました。
- イベント通知ポートデーモン (`enpd`) を、別のポートアドレスで待機するように設定できるため、`enpd` の複数のインスタンスを実行できるようになりました。

## MTA の拡張

MTA には次の機能が追加されました。

- `Messaging Server` は、インストールまたはアップグレード時に `sendmail` のバイナリを置換しなくなりました。詳細については、『`Sun Java System Messaging Server` 管理ガイド』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>) の第 1 章「インストール後の作業とレイアウト」にある「`sendmail` クライアントの処理」を参照してください。
- `Messaging Server` に `Windows-125x` 文字セット (`charset`) のサポートが追加されました。
- 通常の変換エントリで送信メッセージのヘッダーを含むファイルが要求された場合、エンベロープ発信者と受取人の情報は、`x-envelope-from` と `x-envelope-to` で提供されるようになりました。
- 非標準の `refuse Sieve` アクションが追加されました。

このアクションは、システムレベルの `Sieve` スクリプトだけで使用できます。引数には 1 つの文字列を指定します。この `Sieve` を使用すると、現在のメッセージは `SMTP` レベルですぐに拒否されます。文字列の引数は、`SMTP` のエラー文字列として返されます。`refuse` は、`discard` を除き、他の `Sieve` アクションと互換性がありません。

- `Sieve` フィルタでエラーが発生した場合、`Sieve` 所有者には `Sieve` が停止したことが通知されません。ユーザー `Sieve` でない場合は、適切なポストマスターにエラーが通知されます。受信メールはユーザーの受信箱に格納されます。以前のバージョンの `Messaging Server` (5.x 以前) では、`Sieve` フィルタでエラーが発生すると、メッセージは拒否されました (4742425)。
- チャネルテーブルに記述する正式なホスト名の最大長が 40 文字から 128 文字に拡張されました。
- `PMDF` と `SIMS API` のサポートが追加され、中間アドレスのトラッキングが可能になりました。そのため、`ims-ms` は、`ims-master` チャネルプログラムが要求する内部の最終的なアドレス指定形式ではなく、`DSN` が認識可能なアドレスを使用できるようになりました。

- "+\*" サブアドレス置換メカニズムは、ダイレクト LDAP モードの CatchAll アドレスで動作していましたが、置換する文字列は、ローカル部分全体ではなく、サブアドレスだけでした。この動作は変更され、元のアドレスのローカル部分全体がサブアドレスとして CatchAll アドレスに挿入されるようになりました。たとえば、"foo+bar@domain.com" という形式のアドレスでは、domain.com ドメインには ローカルユーザー foo と "bletch+\*@example.com" の domain.com の CatchAll アドレスがないため、最終的なアドレスは "bletch+foo+bar@example.com" となります。以前は "bletch+bar@example.com" となりました。
- 中間アドレスを追跡する低レベルのロギングとメッセージの待機解除コードがサポートされました。その結果、DSN は、チャンネル固有の最終的なアドレス指定形式ではなく、DSN が認識可能なアドレスを使用できるようになりました。
- FROM\_ACCESS、MAIL\_ACCESS、SEND\_ACCESS、ORIG\_SEND\_ACCESS、ORIG\_MAIL\_ACCESS マッピングから Sieve spamajust に相当する操作が実行できるようになりました。\$ メタ文字を指定すると、\$N/\$F 引数の直前にあるマッピングから引数が読み込まれます。この引数は、spamadjust 引数と同じ形式です。これらのマッピングの一部は、受取人ごとに、全受取人に適用される任意の spamadjust 操作に適用されます。その結果、受取人の 1 人がハニーポットアドレスであるかテストできます。
- ETRN コマンドが失敗すると返される SMTP 応答に詳細な診断機能が追加されました。
- imsimta cnbuild は、非常に大きな system Sieve を処理できるようになりました (RFE 4970618)。
- :copy Sieve 拡張が実装されました。
- MTA のアドレス書き換えロジックは、エイリアス展開エラーを適切に処理できるように変更されました。具体的には、エンベロープをオーバーライドしないグループやエイリアスでアドレスの書き換えが失敗しても、グループやエイリアスの中で少なくとも 1 つのアドレスが有効であれば、失敗は無視されます。MTA の変更に伴い、アドレス書き換えの失敗は、グループまたはエイリアスに報告されるようになりました。この変更に伴い、有効なアドレスを含まないグループやエイリアスは、無効なアドレスとして報告されなくなりました。
- SMTP サーバーがオプションファイルを検出できないか、オプションファイルの構文エラーを検出した場合、チャンネルプログラムは異常終了し、エラーメッセージがログに記録されます (4958384)。
- 新しい ACCESS\_ORCPT MTA オプション (有効値は 1 または 0)
  - この値を 1 に設定すると、垂直バーで区切られたフィールドがプローブ値に追加され、元の受取人 (ORCPT) のアドレスが含まれる SEND\_ACCESS、ORIG\_SEND\_ACCESS、MAIL\_ACCESS、および ORIG\_MAIL\_ACCESS マッピングに渡されます。
  - メッセージに ORCPT アドレスが含まれない場合は、代わりに元の RCPT TO アドレスがそのまま使用されます。
- 新しい MAX\_SIEVE\_LIST\_SIZE MTA オプション: 整数値 (デフォルトは 64) を指定して、MTA Sieve スクリプトのリスト構造に表示できる文字列の数を制御します。

---

**注** この MTA オプションは、以前は `MAX_LIST_SIZE` と呼ばれていました。この古い名前は、メーリングリストに関連していると解釈される可能性があるため、変更されました。

---

- Q ログエントリが拡張され、作成するエントリが原因で発生したエラーの追加情報が記録されます (4539521)。
  - MTA `DELIVERY_OPTIONS` オプションが、次の 2 つの新しいプレフィックス文字をサポートするようになりました。
    - **# (シャープ)**: この記号のあとに指定するエントリが、メールホストに依存していないことを指定します。つまり、指定したユーザーまたはグループのすべての配信オプションが、メールホストに依存しているかどうかを確認されます。この条件が満たされている場合には、メッセージをメールホストに転送せずに、MTA がただちにエントリに適用されます。
    - **/ (スラッシュ)**: 現在の配信オプションによって生成されたすべてのアドレスを表わします。つまり、それらの受取人アドレスのメッセージファイルには、`.HELD` 拡張子が付きます。
- さらに、`DELIVERY_OPTIONS` デフォルト値が更新されたため、`FORWARD` 配信メソッドはメールホストに依存していないものとしてマークされます (4622206)。
- 新しい `NOTARY_DECODE` MTA オプション (4629743): 次のいずれかの値を指定します。
    - **1: %H** 置換によって DSN の最初の部分に追加される元のメッセージヘッダーのサブセットを復号化して、DSN の最初の部分の文字セットに一致するように変換します。

---

**注** この設定を使用するときには、UTF-8 などの豊富な情報を持つ文字セットを ISO-8859-1 や US-ASCII などの制限された文字セットに変換すると、情報が失われて混乱することがあるため、注意が必要です。

---

- **0 (デフォルト)**: ヘッダー内の符号化された単語のサブセットのうち、最初の部分の文字セットと一致するものを復号化します。文字セットは変換しません。
  - **-1**: 符号化された単語の復号化を強制的に無効にします。
- 受取人の数、メッセージサイズ、またはメッセージ行の数が一定の制限を超えた場合には、超えた分のメッセージを代替の宛先チャンネルに振り分け直す機能が追加されています。

この機能は、新しいチャンネルキーワードのセットとして実装されます (次のリストを参照)。これらのチャンネルキーワードは、任意の宛先チャンネルに配備できます。

**表 1** 新しいチャンネルキーワード

キーワード	説明	デフォルトの制限
<code>alternatechannel</code>	使用する代替チャンネル名を指定する引数を 1 つ取る	無制限



表 1 新しいチャンネルキーワード (続き)

キーワード	説明	デフォルトの制限
alternateblocklimit	対応するしきい値を指定する整数値を受け取る	無制限
alternatelinelimit		
alternaterecipientlimit		

これらのしきい値のいずれかを超えるメッセージは、元の宛先チャンネルではなく、代替チャンネルのキューに保管されます。

- LDAP\_HOST、LDAP\_USERNAME、LDAP\_PASSWORD、LDAP\_PORT MTA オプションを設定した場合には、LDAP ディレクトリサーバーにアクセスするとき、対応する local.ugldaphost、local.ugldapbinddn、local.ugldapbindcred、local.ugldapport configutil パラメータより優先してそれらのパラメータが使用されます (4537015)。
- LINES\_TO\_RETURN MTA オプションを 0 に設定した場合には、部分的にコンテンツを返さなくなり、メッセージ部分のヘッダーだけが返されます。
- アドレスのローカル部分と MTA が設定する受信フィールドの 8 ビットの文字列が確認され、それらの文字列がアスタリスクと置き換えられるようになりました (4694916)。
- MAIL FROM コマンドが管理上の理由によって失敗したときに、MTA によりログファイルに J レコードが作成されるようになりました。J レコードは、以前は RCPT TO コマンドで障害が発生したときにだけ作成されていました。
- ALIAS\_ENTRY\_CACHE\_NEGATIVE オプションが拡張され、一致する LDAP エントリが見つからないというような一般的によく生じる状態でも機能するようになりました。このオプションは、以前は NO\_SUCH\_OBJECT LDAP エラーが返されたときだけに機能していました。
- サイズに基づいて優先度をオーバーライドするチャンネルキーワード (urgentblocklimit、normalblocklimit、nonurgentblocklimit など) が、変換チャンネルまたはデフラグメントチャンネルにも適用されるようになりました。これらのチャンネルが暗黙的に使用されている場合にも適用されます。これらのキーワードは、以前はチャンネルがメッセージルーティングに明示的に含まれているときにだけ機能していました。
- 新しい CACHE\_DEBUG MTA オプション (ブール値 0 または 1): このオプションを 1 に設定した場合には、MTA コンポーネントは、既存のキャッシュではなく、ドメイン、エイリアス、リバースキャッシュの情報をダンプします (4668998)。
- ALLOW\_RECIPIENTS\_PER\_TRANSACTION TCP チャンネルオプションのデフォルト値が、無制限から 128 に変更されました。
- DISABLE\_SEND TCP チャンネルオプションのデフォルト値が、0 (false) から 1 (true) に変更されました。
- HEADER\_LIMIT MTA オプションのデフォルト値が、無制限から 2000 (ブロック) に変更されました。

- REJECT\_RECIPIENTS\_PER\_TRANSACTION TCP チャンネルオプションが、SMTP VRFY コマンドと RCPT TO コマンドに適用されるようになりました。
- 新しい HEADER\_LIMIT MTA オプション: 最も外側のプライマリメッセージヘッダーの最大サイズを制限します。プライマリメッセージヘッダーは、指定した制限に到達すると、自動的に切り捨てられます。
- Content-type および Content-Disposition パラメータの処理で、パラメータの順序が反転しなくなりました。
- 新しい -[no]reprocessing 修飾子が `imsimta test -rewrite` コマンドに追加されました。この修飾子は、`rewrite_test` が再処理チャンネルとして動作するかどうかを制御します。特に、リストの展開を遅延するかどうかを制御します。通常はリストの展開を遅延するよう、デフォルトで `on` になっています。展開を無効にするときは、`-noreprocessing` を使用します。
- 新しい ROUTE\_TO\_ROUTING\_HOST MTA オプション (有効値は 0 または 1)
  - 0 (デフォルト): 現在の `mailRoutingHosts` 属性と一致しなかったために、ローカルドメインでないと思われたドメインは、ローカルドメイン以外として処理されます。アドレスは、書き換え規則に従って前方向の経路へと指定されます。Messaging Server 5.2 では、この動作だけが有効でした。
  - 1: Messaging Server は、ドメインに関連付けられているすべてのアドレスを `mailRoutingHosts` 属性に指定されている最初のホストを経路として指定します。
- 新しい LOG\_FILTER MTA オプション (デフォルトは 0): 1 を指定した場合は、一重引用符で囲まれた有効なフィルタのリストを、診断フィールドに書き込む前にログファイルのエンキュー (E) レコードに書き込みます (4672405)。
- 新しい `rejectsmtplonglines` キーワード: SMTP で許可されている 1000 文字 (CRLF を含む) を超える行がメッセージに含まれる場合には、そのメッセージを拒否するオプションを追加します。

この領域のその他のオプションとして、長すぎる行を折り返す `wrapsmtplonglines` と、長すぎる行を切り捨てる `truncatesmtplonglines` があります (4619953)。

---

**注**           最後の 2 つのオプションは Messaging Server 5.2 でも使用できましたが、それぞれ `wrapsmtplonglines` および `truncatesmtplonglines` と呼ばれていました。これらの短い名前は、Messaging Server 6.0 では推奨されなくなりましたが、引き続き使用できます。

---

- 新しい `parameterlengthlimit` チャンネルキーワードおよび `nameparameterlengthlimit` チャンネルキーワード (4614439)
  - `parameterlengthlimit` (デフォルトは 1024): 一般的な Content-type および Content-Disposition パラメータが切り捨てられる位置を制御します。
  - `nameparameterlengthlimit` (デフォルトは 128): 一般的な name content-type および filename content-disposition パラメータが切り捨てられる位置を制御します。

- Sieve スクリプトをテストするための新しい機能が、Messaging Server に追加されています。  
この機能を有効にするには、`imsimta test -exp -mm -message=<message-file>` を使用します。  
<message-file> は、テストする RFC 822 メッセージが含まれるテキストファイルです。

---

注            RFC 822 メッセージだけを使用し、キューファイルは使用しないでください。

---

表 2 Sieve スクリプトをテストするために追加された修飾子

修飾子	説明
<code>block</code>	入力全体を単一の Sieve スクリプトとして扱う (デフォルトで各行を個別のスクリプトとして扱う)
<code>from=&lt;addr&gt;</code>	エンベロープテストで使用するようエンベロープ <b>From</b> アドレスを指定する (デフォルトは <code>RETURN_ADDRESS</code> MTA オプションで指定した値)
<code>input=&lt;file&gt;</code>	入力 <code>seive</code> を <file> から読み込む (デフォルトでは、テストスクリプトやスクリプトブロックを <code>stdin</code> から読み込む)
<code>output=&lt;file&gt;</code>	結果を <file> に書き込む (デフォルトでは、スクリプト評価結果を <code>stdout</code> に書き込む)

- 新しい MTA オプションを使用して、MTA から返されるテキスト文字列を設定できるようになりました (4720378)。

次の表は、これらの新しいオプションと、これらのオプションがオーバーライドする文字列の一覧です。

新しいオプション	このオプションがオーバーライドするデフォルト設定
<code>MISSING_RECIPIENT_GROUP_TEXT</code>	"recipients not specified"
<code>ERROR_TEXT_UNKNOWN_HOST</code>	"unknown host or domain"
<code>ERROR_TEXT_UNKNOWN_USER</code>	"unknown or illegal user"
<code>ERROR_TEXT_UNKNOWN_ALIAS</code>	"unknown or illegal alias"
<code>ERROR_TEXT_ACCESS_FAILURE</code>	"you are not allowed to use this address"
<code>ERROR_TEXT_ALIAS_LOCKED</code>	"list is currently reserved and locked"
<code>ERROR_TEXT_ALIAS_AUTH</code>	"you are not allowed to use this list"
<code>ERROR_TEXT_ALIAS_FILEERROR</code>	"error opening file/URL referenced by alias"
<code>ERROR_TEXT_ALIAS_FILEEXIST</code>	"nonexistent file referenced by alias"

ERROR_TEXT_ALIAS_TEMP	"temporary error returned by alias expansion"
ERROR_TEXT_SEND_REMOTE_ERROR	"no protocol to SEND/SAML"
ERROR_TEXT_SEND_UNKNOWN_ERROR	"do not know how to SEND/SAML"
ERROR_TEXT_BLOCK_OVER	"channel size limit exceeded"
ERROR_TEXT_LINE_OVER	"channel line limit exceeded"
ERROR_TEXT_LIST_BLOCK_OVER	"list size limit exceeded"
ERROR_TEXT_LIST_LINE_OVER	"list line limit exceeded"
ERROR_TEXT_SIEVE_ACCESS	"filter access error"
ERROR_TEXT_SIEVE_SYNTAX	"filter syntax error"
ERROR_TEXT_DISABLED_USER	"user disabled; cannot receive new mail"
ERROR_TEXT_DISABLED_ALIAS	"alias disabled; cannot receive new mail"
ERROR_TEXT_OVER_QUOTA	"user over quota; cannot receive new mail"
ERROR_TEXT_TEMPORARY_FAILURE	"unknown host or domain"
ERROR_TEXT_PERMANENT_FAILURE	"unknown host or domain"
ERROR_TEXT_RECEIPT_IT	"message accepted for list expansion processing"
ERROR_TEXT_INACTIVE_USER	"mailbox temporarily disabled"
ERROR_TEXT_INACTIVE_GROUP	"group temporarily disabled"
ERROR_TEXT_DELETED_USER	"recipient no longer on server"
ERROR_TEXT_DELETED_GROUP	"group no longer on server"
ERROR_TEXT_DUPLICATE_ADDRS	"duplicate/ambiguous directory match"
ERROR_TEXT_BRIGHTMAIL_ERROR	"error in Brightmail"

- 新しい USE\_PERMANENT\_ERRORS MTA オプション (デフォルトは 0): MTA から返す特定のエラーについて、一時的エラーとするか永続的エラーとするかを制御します。このオプションの各ビットは、特定のエラー状態に対応します。ビットが設定されているときは、MTA は永続的エラーを返します。

次の表は、USE\_PERMANENT\_ERRORS で定義されているビットの一覧です。

表 3 USE\_PERMANENT\_ERRORS で定義されているビット

位置	値	エラー
0	1	メールボックスが一時的に無効 (非アクティブ) になっている

表 3 USE\_PERMANENT\_ERRORS で定義されているビット ( 続き )

位置	値	エラー
1	2	グループが一時的に無効 ( 非アクティブ ) になっている
2	4	制限容量を超過したユーザー ; 新しいメールを受信できない
3	8	各種のエイリアス展開エラー

- MTA は従来、RFC 3461 ~ 3464 に基づいて DSN (Delivery Status Notification) を生成していましたが、RFC 2298 に基づいて MDN (Message Disposition Notification) も生成するようになりました。

MDN は、ユーザーの Sieve 定義でアクションを拒否するために使用されます。MDN の国際化に対応するために、追加のマッピングが定義されました。このマッピング (`DISPOSITION_LANGUAGE` マッピング) は、DSN の国際化に使用される `notification_language` マッピングに対応します。このマッピングをプローブするには、次の形式を使用します。

```
type|modifiers|source-channel|header-language|return|recipient
```

#### 説明

- **type** はディスポジションタイプで、次のいずれかを指定できます: `displayed`、`dispatched`、`processed`、`deleted`、`denied`、または `failed`。
- **modifiers** は、ディスポジション修飾子をコンマで区切って指定します。現在指定できるのは次のとおりです: `error`、`warning`、`superseded`、および `expired`。
- **source-channel** は、MDN を生成するソースチャンネルです。
- **header-language** は言語で、次のいずれかのオプションを指定します。 `accept-language`、`preferred-language` または `x-accept-language` (MTA は最初のオプションを使用)
- **return** は、通知の返信先アドレスです。
- **recipient** は、ディスポジションの対象のアドレスです。

ディスポジションマッピングの結果は、垂直バー (|) で区切られた 2 つまたは 3 つの情報で構成されます。最初の情報は、開封通知のテンプレートファイルが置かれているディレクトリです。2 番目の情報は、ディスポジションテキストだけに適用される文字セットです。これらの情報は必須です。一部のディスポジション、特に `autoreply` `echo`、または `Vacation Sieve` アクションに対する `:mime` パラメータの使用によりディスポジションを生成する場合は、テンプレートファイルを使用しないので、これらのファイルから文字セットが継承されないためです。3 番目の情報は、通知の件名行のオーバーライドです。この情報は、マッピングによって `$T` フラグも設定される場合にだけ使用されます。

以下の追加テンプレートファイルは、MDN を構築するときに使用されます。

- `disposition_deleted.txt` `disposition_failed.txt`

- disposition\_denied.txt disposition\_prefix.txt
- disposition\_dispatched.txt disposition\_processed.txt
- disposition\_displayed.txt disposition\_suffix.txt
- disposition\_option.opt

これらのテンプレートファイルの使用は、DSN での return\_\*.txt ファイルの使用に対応しています (4662616)。

- 新しい imsimta cache -walk -debug=xxx MTA コマンド: ジョブコントローラがログファイルに現在の状態を書き込む、またはジョブコントローラのデバッグマスクを特定の値に設定する、あるいはそれらの両方の処理を行います。
- threaddepth チャンネルキーワードのデフォルト値が 128 から 10 に変更されました。よくある質問に対して、threaddepth を 10 に設定するよう回答していました。これを反映しています。
- ダイレクト LDAP の代わりに使用できるスペア LDAP 属性の数が、2 個から 5 個になりました。\$nE または \$nG は n 番目のスペアに置き換わります。\$E は最初のスペアに置き換わり、\$G は下位互換性のために 2 番目に置き換わります。
- \$= メタ文字シーケンスが、マッピングおよび書き換えの規則で使用できる \$¥ \$^, \$\_ 形式セレクタに追加されました。\$= を選択した場合は、LDAP 検索フィルタへの挿入に適した、引用される後続の代替文字を指定します。
- 記号置換変換パラメータ値および文字セット変換パラメータ値 (out-dparameter-name-0 など) は、Content-type パラメータから受け取ることができますが、Content-disposition パラメータリストからは受け取りません。それほど厳格に行う必要がないと判断したためです。つまり、Content-disposition パラメータリストの内容は、Content-type で代用できます。
- 変換チャンネルプログラムに、以下の新しい環境記号が定義されています。

表 4 新しい環境記号

記号	説明
PART_SIZE	処理している部分のサイズ (バイト単位)
PART_NUMBER	現在の部分のパート番号 (PART-NUMBER 変換照合パラメータと同じ形式を使用)
ATTACHMENT-NUMBER	現在の部分の添付ファイル番号 (ATTACHMENT-NUMBER 変換照合パラメータと同じ形式を使用)
INPUT_CHANNEL	メッセージを変換チャンネルのキューに入れたチャンネル (IN-CHANNEL 変換パラメータに対応)
OUTPUT_CHANNEL	メッセージが送られるチャンネル (OUT-CHANNEL 変換照合パラメータに対応)
CONVERSION_TAG	アクティブな変換タグの接続の一覧 (TAG 変換照合パラメータに対応)

- `$nX` メタ文字シーケンスが、MTA の URL テンプレート機能に追加されました。`$nX` を使用して、メールホストの  $n$  番目のコンポーネントを挿入します。 $n$  を省略すると、メールホスト全体が挿入されます。
- `$nA` メタ文字シーケンスが、MTA の URL テンプレート機能に追加されました。`$nA` を使用して、現在のアドレスの  $n$  番目の文字を挿入します。 $n$  を省略すると、アドレス全体が挿入されます。
- 新しい `LDAP_MAX_CONNECTIONS` MTA オプション ( デフォルトは 1024 ): MTA ユーザーが LDAP プールに確立できる LDAP 接続数を制限します。
- 新しい `logheader` チャンネルキーワード ( 引数は整数 ): `LOG_HEADER` MTA オプションをチャンネルごとにオーバーライドします。
- `Messaging Server` は、`local.imta.schematag configutil` オプションまたは `LDAP_SCHEMATAG` MTA オプションに指定されているスキーマ名が有効であることを確認するようになりました。
- 新しい `personalmap` チャンネルキーワード: `personalinc/ personalomit/personalstrip` キーワードセットに追加されました。有効にすると、`personalmap` により次のような一般的な形式の `PERSONAL_NAMES` マッピングがプローブされます。

`name | address`

説明

- **name** は、現在の個人名です。
- **address** は、対応するアドレスです。

次のフラグが設定されることがあります。

- **\$I flag**: アドレスではなくメッセージ ID を受け取った場合に、初期設定されます。
- **\$R flag**: 「後方の」ヘッダーから受け取った場合に設定します。
- **\$F flag**: 「前方の」ヘッダーから受け取った場合に設定します。
- **\$Y または \$T フラグ**: エントリが一致して、これらのフラグのいずれかが設定された場合には、マッピングによって元の個人名が置き換わります。
- 新しい `authrewrite` チャンネルキーワードと、関連する `auth_rewrite` マッピング: 認証処理から取得したアドレス情報を使用して、ヘッダーおよびエンベロープアドレスの変更を簡単にできる機能が追加されました。

`authrewrite` キーワードには、整数の引数を 1 つだけ指定します。指定できる値は次のとおりです。

- **0**: 何も変更しません ( デフォルト )
- **1**: `Sender:` または `Resent-sender:` ヘッダーフィールド ( 認証処理から渡されたアドレスが含まれる ) を追加します。`Resent-` 形式は、ほかの `resent-` フィールドが存在する場合に使用されます。
- **2**: `Sender:` ヘッダーフィールド ( 認証処理から渡されたアドレスが含まれる ) を追加します。

- **3: mail-from|sender|from|auth-sender** という形式のプロープを作成します。

説明

- ・ **mail-from** は、エンベロープ From アドレスです。
- ・ **sender** は、Sender: または Resent-sender: ヘッダーフィールドからのアドレスです。
- ・ **from** は、From: または Resent-From: ヘッダーフィールドからのアドレスです。
- ・ **auth-sender** は、認証処理から渡されたアドレスです。

このプロープは、auth\_rewrite マッピングを使用して実行され、垂直バー (|) で区切られた項目のリストを返します。これらの項目は、次のフラグを設定するために順番に処理されます。

- ・ **\$J または \$K:** メッセージのエンベロープ from アドレスを置換します。
- ・ **\$Y または \$T:** 適切な Sender: または Resent-sender: ヘッダーフィールドを追加します。
- ・ **\$Z:** 適切な From: または Resent-from: ヘッダーフィールドを追加します。Resent- 形式は、ヘッダーにほかの resent- フィールドが存在する場合に使用されます。

- **4: 3** と同じですが、resent- 形式は使用されません。

- 新しく生成された設定では、identnonelimited がデフォルトで使用されていましたが、identnonenumeric がデフォルトで使用されるように変更されました。新しいデフォルトでは、DNS 検索はできません。
- URL を決定するときに、\$K メタ文字を使用できるようになりました。検索フィルタの代わりに使用して、オブジェクトクラスがユーザーまたはグループに設定されている現在の基準と一致するかどうかを確認できます。このメタ文字を REVERSE\_URL MTA オプションで使用すると、個人用アドレス帳のエントリなどと間違っ一致することがなくなります。
- 初めて作成した設定の ORIG\_SEND\_ACCESS マッピングテーブルに、3 個の新しいエントリが追加されました。これらのエントリは、「内部」システムを「経由する」リレーをブロックするために、tcp\_intranet チャネルに明示的に発信元経路制御されたアドレスを「外部」送信できないようにします。つまり、通常のリレーブロックを回避するために、1 つまたは複数の内部システムを経由して明示的に発信元経路制御するリレーを検出すると、これらのエントリはそのリレーをブロックします。

また、dequeue\_removeoute チャネルキーワードが tcp\_intranet チャネル定義に追加され、「フロントライン」システムと「バックエンド」システムの設定を一致させることができるようになりました。このキーワードを使用すると、フロントラインシステムが発信元経路制御したアドレス (@mailhost:user@host など) を使った場合でも、バックエンドシステムが表示されることがなくなります。これにより、フロントラインシステムの IP アドレスを内部アドレスとして認識するために、バックエンドシステムが適切に設定されているかどうかについて、確認する作業が減少します。

ただし、dequeue\_removeoute をこのように使用する場合には、バックエンドシステムがメッセージの経路指定 (LDAP 検索など) だけを行うことが前提となります。



- `USE_ERRORS_TO` および `USE_WARNINGS_TO` MTA オプションは、規格に準拠していなかったため、これらのオプションをサポートするコードとともに削除されました。
- ドメインの `mailDomainStatus` 属性を `unused` に設定すると、そのドメインは完全に無視されません。
- `$G` メタ文字が次のアクセスマッピングに追加されました。
  - `ORIG_SEND_ACCESS`
  - `SEND_ACCESS`
  - `ORIG_MAIL_ACCESS`
  - `MAIL_ACCESS`
  - `FROM_ACCESS`

`$G` メタ文字は、マッピング結果から値を読み込み、変換タグセットとして現在の受取人に適用されます。値が `FROM_ACCESS` の場合には、すべての受取人に適用します。  
`$G` は、マッピングから読み込まれた引数シーケンス内で、`$A` (ヘッダーアドレス) の次にあります。

- `jettison` Sieve アクションが `Messaging Server Sieve` 実装に追加されました。  
`jettison` は、`discard` と同様に、メッセージを自動的に破棄します。`jettison` と `discard` の違いは、`discard` は暗黙的な `keep` をキャンセルする以外何もませんが、`jettison` は強制的に `discard` を実行するという点です。この動作の違いは、複数の Sieve を行うときにだけ影響があります。たとえば、システムレベルの `discard` は、明示的に `keep` を指定しているユーザー Sieve によってオーバーライドされることがありますが、システムレベルの `jettison` は、ユーザー Sieve を完全にオーバーライドします。

- `$Z` メタ文字が、次のアクセスマッピングに追加されました。
  - `ORIG_SEND_ACCESS`
  - `SEND_ACCESS`
  - `ORIG_MAIL_ACCESS`
  - `MAIL_ACCESS`
  - `FROM_ACCESS`

`$Z` を使用すると、すべての受取人に対して強制的に `jettison` が実行されます。

- RFC 3431 のサポート (Sieve 関連の拡張) が、`Messaging Server` に追加されました。
- Schema 2 をサポートするために、以下の新しい MTA オプションが追加されました。
  - **`LDAP_SCHEMALEVEL`**: サポートするスキーマレベルを指定する整数値
    - 1 = Schema 1 (デフォルト)
    - 2 = Schema 2

- **LDAP\_DOMAIN\_FILTER\_SCHEMA1** (デフォルトは `(!(objectclass=inetDomain)(objectclass=inetdomainalias))`): Schema 1 ドメインの識別に使用するフィルタを指定する文字列
- **LDAP\_DOMAIN\_FILTER\_SCHEMA2** (デフォルトは空白文字列): Schema 2 ドメインの識別に使用する追加フィルタ要素を指定する文字列
- **LDAP\_ATTR\_DOMAIN1\_SCHEMA2** (デフォルトは `sunPreferredDomain`): Schema 2 の一次ドメインの保存に使用する属性を指定する文字列
- **LDAP\_ATTR\_DOMAIN2\_SCHEMA2** (デフォルトは `associatedDomain`): Schema 2 の二次ドメインの保存に使用する属性を指定する文字列
- **LDAP\_GLOBAL\_CONFIG\_TEMPLATES** (デフォルトは空白文字列): グローバル設定テンプレートがある DN を指定する文字列

---

**警告**

LDAP\_GLOBAL\_CONFIG\_TEMPLATES 属性は、通常的环境で使用すべきではありません。この属性を使用して通常と異なる検索方式を指定すると、ドメインの矛盾などの問題が生じることがあります。

---

- **LDAP\_ATTR\_DOMAIN\_SEARCH\_FILTER** (デフォルトは `inetDomainSearchFilter`): ドメイン検索フィルタテンプレートの保存に使われる、グローバル設定テンプレート領域の属性を指定する文字列

---

**注**

LDAP\_DOMAIN\_FILTER MTA オプションが廃止されたため、削除されました。

---

- 従来は汎用データベース、フォワードデータベース、およびリバースデータベースに保存されていた情報を統合された設定に保存するための新しい機能が追加されました。  
この機能を制御するために、新しい `USE_TEXT_DATABASES` MTA オプションが追加されました。このオプションはビット符号化されています。
  - ビット **0** (値 1) を設定した場合は、MTA 設定が初期化されていると仮定して `IMTA_TABLE:general.txt` ファイルを読み込み、汎用データベースを使用する代わりに `IMTA_TABLE:general.txt` ファイルの情報を使用します。
  - ビット **1** (値 2) を設定した場合は、`IMTA_TABLE:reverse.txt` ファイルを読み込み、リバースデータベースの代わりにこのファイルの情報を使用します。
  - ビット **2** (値 4) を設定した場合は、`IMTA_TABLE:forward.txt` ファイルを読み込み、フォワードデータベースの代わりにこのファイルの情報を使用します。
- 新しい `overquota` ステータス値が、制限容量を超過する可能性のあるメールユーザーとメールドメインのステータスリストに追加されました。この新しい値が設定されると、「ユーザーが制限容量を超過している」というエラーが生成されます。

---

注 USE\_PERMANENT\_ERRORS MTA オプション (12 ページを参照) を使用して、そのエラーが一時的なエラーか永続的なエラーかどうかを制御できます。

---

- MTA マッピング機能に、ドメイン別の属性にアクセスする機能が追加されました。

このマッピング機能では、`{domain,attribute}` という形式のメタ文字シーケンスを使用します。

説明

- **domain** はアクセスするドメインです。
- **attribute** は、ドメインに関連付けられている属性です。

そのドメインが存在し、指定した属性を持っている場合には、その初期値がマッピング結果に代入されます。ただし、指定した属性またはドメインのいずれかが存在しない場合には、そのマッピングエントリは失敗します。

- IMTA\_LANG:return\_option.opt (DSN) ファイルと IMTA\_LANG:disposition\_option.opt ファイルを作成して、変換された DSN をカスタマイズし、変換された MDN 件名行を渡すことができます。

これらのファイルでは、生成される通知を柔軟に国際化できるように、次のオプションをサポートしています。

- **RETURN\_PERSONAL** (DSN および MDN): From: フィールドと一緒に使用される personal name フィールドのオーバーライド。このフィールドは RFC 2047 に準拠して符号化する必要があります。
- **SUBJECT** (DSN および MDN): Subject: フィールドのオーバーライド。フィールド自体が通知から渡されなかった場合にだけ使用されます。このフィールドは UTF-8 で符号化する必要があります。
- **RECIPIENT\_ADDRESS** (DSN): DSN の最初の部分で、各受取人セクションの構築に使用される Recipient address: テキストのオーバーライド。このフィールドに指定する文字セットは、DSN の最初の部分に使用される文字セットと一致させる必要があります。
- **ORIGINAL\_ADDRESS** (DSN): DSN の最初の部分で、各受取人セクションの構築に使用される Original address: テキストのオーバーライド。このフィールドに指定する文字セットは、DSN の最初の部分に使用される文字セットと一致させる必要があります。
- **REASON** (DSN): DSN の最初の部分で、各受取人セクションの構築に使用される Reason: テキストのオーバーライド。このフィールドに指定する文字セットは、DSN の最初の部分に使用される文字セットと一致させる必要があります。
- **DIAGNOSTIC\_CODE** (DSN): DSN の最初の部分で、各受取人セクションの構築に使用される Diagnostic code: テキストのオーバーライド。このフィールドに指定する文字セットは、DSN の最初の部分に使用される文字セットと一致させる必要があります。
- **TEXT\_CHARSET** (MDN): MDN の最初の部分と件名の文字セットのテキストが、n.n.n (DSN) に変換されます。

DSN の各受取人の部分を構築するときに、各受取人の数値ステータスと一致するオプション名があるかどうかを確認されます。一致するオプションがある場合は、対応するテキストが DSN に挿入されます。また、REASON オプション (前述) の生成した結果が長さゼロの場合には、REASON フィールドは挿入されません。

- **HOURL (DSN):** RETURN\_UNITS=1 が設定されているときに、%U または %u の代わりに挿入されるテキスト。%U と %u は区別されません (英語の場合には、デフォルトでは「Hour」または「hour」に置換される)。
- **DAY (DSN):** RETURN\_UNITS=0 (デフォルト) が設定されているときに、%U または %u の代わりに挿入されるテキスト。%U と %u は区別されません (英語の場合には、デフォルトでは「Day」または「day」に置換される)。
- 文字セット変換マッピングが拡張されて、いくつかの機能が追加されました。
  - マッピングエントリの出力テンプレートに IN-CHARSET オプションを指定すると、符号化された単語に指定された文字セットをオーバーライドします。IN-CHARSET オプションを使用して入力文字セットを \* に設定すると、文字セットに対応するラベルが自動的に判別されます。
  - RELABEL-ONLY オプションを指定する場合は、次の整数値を指定できます。
    - 1: OUT-CHARSET が IN-CHARSET に置き換わります。
    - 0: ラベルは変更されません。
- 新しい 552\_permanent\_error\_string SMTP オプション (関連する tcp\_\*\_option ファイルを参照): 552 応答を永続的なエラーと見なすかどうかを決定します。

通常の場合は RFC 2821 に準拠して、552 応答は 4xx の応答と見なされ、一時的なエラーとして処理されます。一部の古い SMTP サーバーでは、552 応答が永続的なエラーとして使用されるため、この動作を許可するためにこの SMTP オプションが追加されました。

552 応答を受信すると、それに関連付けられたテキスト (xx.xx.xx 拡張エラーコードを含む。先行する空白は除外されている) が、552\_permanent\_error\_string オプションの値と比較されます。テキストが一致する場合にだけ、552 応答が永続的と見なされます。テキストが一致しない場合には、再試行可能なエラーと見なされます。

- ims-ms チャネルが master\_debug チャネルキーワードをサポートするようになりました。このキーワードは、DEBUG=4 チャネルオプションを設定した場合と同じ効果があります。
- imsimta restart および imsimta shutdown コマンドに、ディスパッチャサービスを有効な引数として指定できるようになりました。

たとえば、imsimta restart smtp を実行すると、ディスパッチャ設定の定義に従って SMTP サービスだけが再起動します。再起動できるディスパッチャサービスは、現在実行中のサービスだけです。imsimta shutdown smtp を実行する場合は、ディスパッチャを再起動して SMTP サービスをもう一度起動する必要があります。

- MISSING\_RECIPIENT\_POLICY MTA オプションのデフォルト値が、1 (To:、Cc:、または Bcc: フィールドが含まれていない場合でも、不正なヘッダーを編集しない) から 0 (To: フィールドをヘッダーに追加して有効にする) に変更されました。このため一貫性と最善の方法が保証されます。

- SMTP によって設定されたトランスポート情報およびアプリケーション情報の文字列が、再処理チャンネルから送信されるようになりました。
- [auth\_channel] および [cant\_channel] 位置を特定しないエイリアスパラメータを、空白文字でチャンネルパターンを区切って指定できるようになりました。
- 新しい disabled ステータス値が、無効になる可能性がある mail user、mail group、mail domain ステータスリストに追加されました。この値を設定すると、user/group is disabled という永続的エラーが生成されます。
- 書き換え規則とマッピングで行われた検索から、URL 結果がキャッシュされるようになりました。この新しい URL 結果キャッシュは、次の 2 つの新しい MTA オプションによって制御されます。
  - URL\_RESULT\_CACHE\_SIZE (デフォルトは 10000 エントリ)
  - URL\_RESULT\_CACHE\_TIMEOUT (デフォルトは 600 秒)
- 非同期 LDAP 検索のサポートが MTA に追加されました。非同期検索を利用すると、LDAP の結果全体をメモリに保存する必要がなくなります。LDAP の結果をメモリに保存すると、パフォーマンスが低下することがあります。

新しい LDAP\_USE\_ASYNC MTA オプション (ビット符号化値。デフォルトは 0): 非同期 LDAP 検索の使用方法を制御します。指定したビットに応じて、MTA 内で非同期 LDAP 検索を使用できます。次のビットが定義されています。

表 5 LDAP\_USE\_ASYNC ビット

ビット	値	説明
0	(値 1)	LDAP_GROUP_URL1 (mgrpDeliverTo) の URL
1	(値 2)	LDAP_GROUP_URL2 (memberURL) の URL
2	(値 4)	LDAP_GROUP_DN (UniqueMember) の DN
3	(値 8)	auth_list、moderator_list、sasl_auth_list、および sasl_moderator_list 位置を特定しないリストパラメータの URL
4	(値 16)	cant_list、sasl_cant_list 位置を特定しないリストパラメータの URL
5	(値 32)	originator_reply 位置を特定しないリストパラメータの URL
6	(値 64)	deferred_list、direct_list、hold_list、nohold_list 位置を特定しないリストパラメータの URL
7	(値 128)	username_auth_list、username_moderator_list、username_cant_list 位置を特定しないリストパラメータの URL
8	(値 256)	エイリアスファイルリストの URL
9	(値 512)	エイリアスデータベースリストの URL
10	(値 1024)	LDAP_CANT_URL (mgrpDisallowedBroadcaster) 外部レベルの URL

表 5 LDAP\_USE\_ASYNC ビット ( 続き )

ビット	値	説明
11	( 値 2048 )	LDAP_CANT_URL 内部レベルの URL
12	( 値 4096 )	LDAP_AUTH_URL (mgrpAllowedBroadcaster) 内部レベルの URL
13	( 値 8192 )	LDAP_AUTH_URL 内部レベルの URL
14	( 値 16384 )	LDAP_MODERATOR_URL (mgrpModerator) の URL

デフォルト値 (0) の LDAP\_USE\_ASYNC では、Messaging Server MTA の非同期 LDAP 検索が無効になります。

- チャンネル単位にメッセージ受取人を制限する機能が、Messaging Server に追加されました。2つの新しいチャンネルキーワードを使用して、この機能を制御します ( 引数は単一の整数 )。
  - **recipientlimit**: メッセージに指定できる受取人アドレスの総数を、指定した値に制限します。
  - **recipientcutoff**: MTA に表示される受取人の総数を、指定した値と比較します。受取人の数が指定した制限を超えると、メッセージを配信できなくなります。
- 新しい Messaging Server MTA 機能を使用して、PERSONAL\_NAME マッピングから LDAP コールアウトを使用しなくても、ヘッダーアドレスに関連付けられた個人名情報をオーバーライドできるようにになりました。たとえば、ユーザー LDAP エントリに関連付けられている属性名のうち、オーバーライド個人名情報を持っている名前に対して、新しい LDAP\_PERSONAL\_NAME MTA オプションを設定できます。

この属性の値に 8 ビット文字が含まれる場合、それらの 8 ビット文字は UTF-8 として符号化されます。ほかの文字セットのサポートは実装および予定されていません。ほかの文字セットが必要な場合は、変換を使用して取得できます。

- mgrpMsgPrefixText と mgrpMsgSuffixText LDAP 属性を使用すると、メッセージグループが開かれるときにプレフィックスまたはサフィックステキストをメッセージに挿入できるようになりました。この操作は、デフォルトの属性で行うことができます。LDAP\_PREFIX\_TEXT と LDAP\_SUFFIX MTA テキストオプションを使用すると、ほかの属性も指定できます。

テキストは、先頭の text/plain 部分だけに挿入できます。属性値は UTF-8 で指定しますが、あとでテキストの挿入先の文字セットと一致するように変換されます。

- \$\$ メタ文字が FROM\_ACCESS マッピングに追加されました。このメタ文字を使用すると、垂直バー (|) で区切られた引数がマッピング結果から読み込まれます。

この引数は、取り込み引数が読み込まれたあとで、マッピング結果から読み込まれます。引数は、コンマで区切られた最大 3 個の整数値で構成されます。

- 最初の値によって、トランザクションの最小 blocklimit が更新されます。
- 2 番目の値によって、最小 recipientlimit が更新されます。

○ 3番目の値によって、最小 recipientcutoff が更新されます。

- recipientlimit、recipientcutoff、blocklimit を差出人に基づいて設定する機能が、Messaging Server に追加されました。

新しい LDAP\_RECIPIENTLIMIT、LDAP\_RECIPIENTCUTOFF、LDAP\_SOURCEBLOCKLIMIT MTA オプションを使用して、LDAP 属性の名前を指定できます。この名前は、LDAP 属性を取得するときに使用します。これらのオプションには、デフォルト値はありません。

- recipientlimit、recipientcutoff、blocklimit を差出人のドメインに基づいて設定するという機能が、Messaging Server に追加されました。

新しい LDAP\_DOMAIN\_ATTR\_RECIPIENTLIMIT、LDAP\_DOMAIN\_ATTR\_RECIPIENTCUTOFF、LDAP\_DOMAIN\_ATTR\_SOURCEBLOCKLIMIT MTA オプションを使用して、ドメイン属性の名前を指定できます。これはドメイン属性の情報を取得するときに必要になります。これらのオプションには、デフォルト値はありません。

- エイリアスを処理するときに、LDAP\_PERSONAL\_NAME MTA オプションに指定した属性に含まれる個人名情報を記録して、この情報を使って MDN または生成された Vacation 応答の From: フィールドが構築されるようになりました (4618559)。
- REJECT\_RECIPIENTS\_PER\_TRANSACTION SMTP チャンネルオプションに対して、ALLOW\_RECIPIENTS\_PER\_TRANSACTION SMTP チャンネルオプションより大きい値を設定できるようになりました。また、受取人を追加する操作が成功した場合を含めてすべて記録され、この値が REJECT\_RECIPIENTS\_PER\_TRANSACTION と比較されるようになりました (4870897)。
- MTA は、特定のアドレスを展開した結果が最終的な受取人アドレスとして DSN および MDN で使用されるかどうかについて、管理できるようになりました。展開結果が使用されない場合には、使用されるアドレスも管理できます。

LDAP によって実装されたさまざまなアドレス展開のセマンティクスは、正確に定義されており、この情報を自動的に設定します。ただし、エイリアスファイルとデータベース内のエントリは、明確なセマンティクスを持たず、さまざまな目的に使用されます。このため、非表示にするように指定した展開アドレスを明示的に呼び出す機能が追加されました。展開アドレスのプレフィックスとしてコロンを付けると、DSN と MDN では使われなくなります。代わりに、エイリアスを展開するときに、アドレスを入力します。この機能を使用するエイリアスファイルは、次のように入力します。

```
a::b@example.com
```

- FROM\_ACCESS、SEND\_ACCESS、MAIL\_ACCESS、ORIG\_SEND\_ACCESS、ORIG\_MAIL\_ACCESS マッピングを呼び出す前に、次のフラグを設定できます。
  - **\$A:** SASL が使用されている場合に設定します。
  - **\$T:** TLS が使用されている場合に設定します。
  - **\$S:** 配信済みメッセージの要求が成功した場合に設定します (FROM\_ACCESS では使用できない)。
  - **\$F:** 配信済みメッセージの要求が失敗した場合に設定します (FROM\_ACCESS では使用できない)。
  - **\$D:** 配信済みメッセージの要求が遅延した場合に設定します (FROM\_ACCESS では使用できない)。

- FROM\_ACCESS、MAIL\_ACCESS、ORIG\_MAIL\_ACCESS マッピングに渡されるアプリケーション情報文字列に、HELO/EHLO SMTP コマンドで要求されているシステム名が含まれるようになりました。この名前は文字列の最後にあり、残りの文字列 (通常は「SMTP」) とスラッシュ (/) で区切られます。要求されているシステム名は、ワームやウイルスなどをブロックするときに利用できます。
- 新しい USE\_PERSONAL\_NAMES と USE\_COMMENT\_STRINGS MTA オプションが追加されました。PERSONAL\_NAMES と COMMENT\_STRINGS マッピングをプローブするときに、これらのオプションを使用してソースおよび宛先チャネル情報を含めることができます。

どちらかのオプションにビット 0 (値 1) を設定すると、通常の source-channel|destination-channel| プレフィックスが対応するマッピングプローブに追加されます。

これらの新しいオプションでは、PERSONAL\_NAMES または COMMENT\_STRINGS オプションを使用するかどうかは制御されません。PERSONAL\_NAMES や COMMENT\_STRINGS オプションは、さまざまなチャネルキーワードによって制御されます。

- RFC 3598 のサポート (Sieve サブアドレスの拡張) が Messaging Server に追加されました。
- 新しい LDAP\_DOMAIN\_TIMEOUT MTA オプション (秒単位で指定。デフォルトは 60 \* 15 または 15 分): ドメインマップキャッシュにエントリが保存される期間を制御します。
- FILTER\_DISCARD MTA オプションは、filter\_discard チャネルを jettison sieve アクションで使用するかどうかを制御するために使用されていました。この制御が、新しい FILTER\_JETTISON オプションとして分離されました。FILTER\_JETTISON のデフォルトの動作は、FILTER\_DISCARD 設定から引き継がれています。代わりに、FILTER\_DISCARD のデフォルト値が、1 (破棄したメッセージがビットバケットチャネルに転送される) になります。
- \$# シーケンス番号生成マッピングと書き換え規則のメタ文字を、4 番目の引数で (オプション係数) として使用できるようになりました。この 4 番目の引数に m を指定した場合、挿入される値はファイル係数 m から取得されるシーケンス番号です。
- ユーザー単位の変換タグが、メールホスト情報が適用される前に適用されるようになりました。これによって、フロントエンドシステムでユーザー固有の変換処理を実行することができます (RFE 4906355)。
- 従来は、スパムフィルタの optin 属性がユーザーエントリに含まれているだけで、フィルタが有効になっていました。確認できる値は、適用されるフィルタの種類だけでした。この動作は、一部のディレクトリ保守ツールと互換性がありません。つまり、この属性を常に渡すけれども、その属性値が「オフ」または「NULL」(フィルタを無効にする) であることを前提とするツールの場合には、そのツールを使用できなくなります。

このため、NULL 値の機能が追加されました。新しい SPAMFILTER\_NULL\_OPTIN MTA オプションには、スパムフィルタの optin 属性が無視される値を指定します (デフォルトは空白文字列です。つまり、optin 属性は存在するが何も指定されていない場合には、デフォルトではこの属性は無視される)。



- LDAP\_TIMEOUT MTA オプションが追加されました (実際には再度使用可能になった。従来は PMDF に含まれていた): MTA によって実行される LDAP 検索のタイムアウトを設定します。このオプションは、ドメインマップ (新しいバージョンと古いバージョンを含む) によって実行される LDAP 検索には適用されません (4859069)。
- \$V メタ文字が、次のアクセスマッピングに追加されました。
  - ORIG\_SEND\_ACCESS
  - SEND\_ACCESS
  - ORIG\_MAIL\_ACCESS
  - MAIL\_ACCESS
  - FROM\_ACCESS

このメタ文字を使用すると、すべての受取人が強制的に破棄されます。

- 統合された新しい API
- 新しい MTA の Vacation および自動返信機能。MTA は、自動的に生成された電子メールへの応答のため、MDN (Message Disposition Notifications) および SIEVE フィルタリング言語を使用します。
- Brightmail および Spamassassin スпамフィルタリングユーティリティの統合とサポート
- 2 層アーキテクチャの LMTP プロトコルのサポート。これは、SMTP プロトコルとは違って、メッセージを受取人のメールボックス内に直接送信できるようにします。SMTP プロトコルの場合、メッセージはバックエンドストアマシン上の MTA チャネルキューを経由します。
- MTA ダイレクト LDAP 検索。これにより MTA は、Sun Java System Directory Server (Directory Server) と直接対話することができます。この結果、Messaging Server は、ディレクトリ属性 mail、mailAlternateAddress、mailEquivalentAddress で、RFC 2821 規格に準拠したメールアドレスの使用が必要になりました。
- SMTP サーバーのデフォルトの動作が変更されました (4890252)。SMTP サーバーのデフォルトの動作は、さまざまな改行記号を簡単に受け入れてしまいます。現在のところ、smtp キーワードは、tcp チャネル上の smtp\_crorlf チャネルキーワードと同じ意味です。この動作は最初の SMTP 仕様 (RFC 821) に準拠しているだけでなく、最新の SMTP 仕様 (RFC 2821) にも準拠しています。

具体的には、smtp キーワードは smtp\_crlf チャネルキーワードと同義です。詳細は、『Messaging Server 管理ガイド』の「チャネル定義を設定する」の章の「チャネルプロトコル選択と改行記号」の項を参照してください。

---

注 ユーザー管理ユーティリティは、Messaging Server および Sun Java System Calendar Server (Calendar Server) ユーザーのプロビジョニング用に推奨されています ( 詳細は、『Sun Java System Communications Services User Management Utility Administration Guide』 (<http://docs.sun.com/doc/817-5703>) を参照)。

『Sun Java™ Enterprise System インストールガイド』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>) で説明されているように、Identity Server サービスは、Messaging および Calendar Server LDAP ユーザーエントリの最小限のプロビジョニングだけを提供します。Identity Server のサービスインタフェースで入力確認を行わないため、メールを受信できない (受信しないと機能しない) ユーザーエントリの場合は、エラーを報告せずに作成されます。このため、Identity Server のサービスインタフェースは、デモンストレーションを目的とする場合にだけ使用することを推奨します。

---

## 推奨されなくなった機能

次に示す機能のサポートは、将来のリリースでは削除される可能性があります。

### Messenger Express

この先、Messenger Express ユーザーインタフェースに新しい機能は追加されません。新しい Communications Express ユーザーインタフェースが追加されたため、Messenger Express の使用は推奨しません。Sun Microsystems, Inc. は Messenger Express を廃止する時期を発表する予定です。

### MTA によるデータベースファイルへのアクセスと MTA データベースファイルを操作する imsimta ツール

#### 2 つの SSL 設定パラメータ

次の設定パラメータがサポートされなくなりました。

- encryption.nscertfile
- encryption.nskeyfile

### MTA または MMP 設定ファイルのダイレクト編集

コマンド行ツールは将来のリリースで提供される予定です。現在のところ、MTA や MMP 設定ファイルは、テキストエディタで編集しますが、その内容が完全に公開されているわけではありません。

### job\_controller.cnf ファイルの [PERIODIC\_JOB=] セクションの使用 (4907007)

iMS に同梱されていたデフォルトのエントリは、新しいスケジューラプロセスに移動され、デフォルトの job\_controller.cnf ファイルから削除されました。具体的には、次のとおりです。

- MTA のデフォルトの定期的ジョブは、新しいスケジューラプロセスによってスケジュールされるようになりました。
- デフォルトを変更するサイトは、これらの変更を新しいスケジューラプロセスの設定に適用する必要があります。

- 定期的ジョブをスケジュールするための MTA ジョブコントローラの使用は推奨されなくなつたため、この機能は将来のリリースで MTA ジョブコントローラから削除される予定です。

### IMAP、POP、または Messenger Express を含むカスタム提供のプラグイン

このリリース用の Messenger Express 認証プラグイン API がサポートされていますが、シングルサインオンを設定する際は Identity Server を使用することをお勧めします。クライアント証明書マッピングのプラグインは、今後サポートされません。

### IDENT プロトコルのサポート

MTA ident \* キーワード、およびアクセス制御フィルタの ident ユーザー名がサポート外になりました。indentnone\* キーワードは引き続きサポートされます。

### Delegated Administrator の Web コマンド行インタフェース

Web コマンド行インタフェースは、新しいコマンド行ツール、Communications Services ユーザー管理ユーティリティ commadmin に置き換えられました。このユーティリティは Identity Server を統合します。このユーザー管理ユーティリティを使用すると、Schema 2 の LDAP ディレクトリに対してプロビジョニングできます。このユーティリティでは、Schema 1 の LDAP ディレクトリに対してプロビジョニングできません。

Delegated Administrator ユーティリティを使用すると、Schema 1 ディレクトリに対してプロビジョニングできますが、Schema 2 には使用できません。

### MMP SECTION オプション

ServiceList MMP 設定パラメータの INSTANCENAME 指定した SECTION オプション (省略可能) は、推奨されなくなったため、将来のリリースで削除される予定です。

### imsimta start と imsimta stop コマンド

新しい start-msg と stop-msg コマンドが、imsimta start と imsimta stop にそれぞれ置き換えられました。imsimta start と imsimta stop コマンドは、将来のリリースでは削除される予定です。

---

**注** start-msg と stop-msg コマンドの詳細については、『Messaging Server 管理ガイド』を参照してください。

---

---

# システム要件

この節では、このリリースの Messaging Server に必須のハードウェアおよびソフトウェア要件について説明します。

- [対応プラットフォーム](#)
- [Linux のインストールパス](#)
- [クライアントソフトウェアの要件](#)
- [製品のバージョン間の互換性に関する要件](#)

## 対応プラットフォーム

今回のリリースは、次のプラットフォームに対応しています。

- Solaris 8 Operating System + 必須パッチ (SPARC プラットフォーム版)
- Solaris 9 Operating System Update 2 + 必須パッチ (SPARC および x86 プラットフォーム版)
- Linux Red Hat EL Advanced Server 2.1 u2 + 必須パッチ (glibc 2.2.4-31)

Solaris と Linux に必要なアップグレードパッチとカーネルのバージョンなどの詳細は、次のマニュアルを参照してください。

『Sun Java Enterprise System インストールガイド』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)

『Sun Java Enterprise System リリースノート』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)

Messaging Server パッケージのリストは、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>) の付録 E 「配布内容のディレクトリ構造」を参照してください。

---

**注** Java Enterprise System インストーラは、プラットフォームに必須なパッチの有無を確認します。すべての必須パッチをインストールする必要があります。そうしないと、インストール処理は続行されません。

---

---

**注** Messaging Server のパフォーマンスは、CPU のパワー、使用可能なメモリ、ディスク容量、ファイルシステムのパフォーマンス、使用パターン、ネットワークの帯域幅など、さまざまな要因によって左右されます。たとえば、スループットはファイルシステムのパフォーマンスに直接関連します。サイズの割り当てやパフォーマンスについて疑問点がある場合は、ご購入先にお問い合わせください。

---

# Linux のインストールパス

Linux オペレーティングシステムでは、Messaging Server のコアソフトウェアは、以下のデフォルトパスにインストールされます。

`/opt/sun/messaging`

インストール後の設定中に、Messaging Server データおよび設定ファイルが以下のデフォルトパスに作成されます。

`/var/opt/sun/messaging`

## Messaging Server RRM 名

Messaging Server コアソフトウェアは、以下の RPM 名でインストールされます。

- `sun-messaging-core-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-mta-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-core-en-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-sieveui-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-mmp-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-install-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-store-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-lib-6.1-9.i386.rpm`
- `sun-messaging-webmail-6.1-9.i386.rpm`

Messaging Server ローカライズ (l10n) ファイルは、以下の RPM 名でインストールされます。

- `sun-messaging-l10n-de-6.1-7.i386.rpm`
- `sun-messaging-l10n-es-6.1-7.i386.rpm`
- `sun-messaging-l10n-fr-6.1-7.i386.rpm`
- `sun-messaging-l10n-ja-6.1-7.i386.rpm`
- `sun-messaging-l10n-ko-6.1-7.i386.rpm`
- `sun-messaging-l10n-zh_CN-6.1-7.i386.rpm`
- `sun-messaging-l10n-zh_TW-6.1-7.i386.rpm`

## Linux でのユーザー管理ユーティリティのインストール

ユーザー管理ユーティリティ (commadmin) ソフトウェアは、以下のデフォルトパスにインストールされます。

```
/opt/sun/comms/commcli
```

ユーザー管理ユーティリティソフトウェアは、以下の RPM 名でインストールされます。

- sun-commcli-client-1.1-8.i386.rpm
- sun-commcli-server-1.1-8.i386.rpm

## Linux での Communications Express のインストール

Communications Express ソフトウェアは、以下のデフォルトパスにインストールされます。

```
/opt/sun/uwc
```

Communications Express ソフトウェアは、以下の RPM 名でインストールされます。

- sun-uwc-6.1-5.i386.rpm

## クライアントソフトウェアの要件

Messenger Express を使用するには、Messaging Server に JavaScript 対応のブラウザが必要です。最適なパフォーマンスを得るには、表 6 に示したブラウザを推奨します。

表 6 Messaging Server 6 2004Q2 で推奨されるクライアントソフトウェア

ブラウザ	Solaris 8 (Sparc 版)、Solaris 9 (Sparc 版および X86 版)	Windows 98	Windows 2000	Windows XP	Red Hat Linux 7.2	Macintosh OS X
Netscape™ Communicator	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1
Internet Explorer	なし	6.0 SP1	6.0 SP1	6.0 SP1	なし	なし
Mozilla™	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.2 以降

## 製品のバージョン間の互換性に関する要件

Messaging Server と互換性がある製品のバージョンを表 7 に示します。

表 7 製品のバージョン間の互換性に関する要件

製品	バージョン
Sun Cluster	3.1*
Veritas Cluster Server	1.3, 2.0, 3.5
Sun Java System Directory Server	5.1, 5.2
Sun Java System Identity Server	6.1 ( コマンド行インタフェースのみ )
Sun Java System Web Server	6.1 ( ただし、iPlanet™ Delegated Admin を使用する場合は 6.0 Service Pack 5 が必要 )

注 \* Messaging Server 6 2004Q2 は Sun Cluster 3.0 U3 (Update 3) に対応していません。  
(4947465)

製品のバージョンの依存関係については、次のマニュアルを参照してください。

『Sun Java Enterprise System インストールガイド』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)

『Sun Java Enterprise System リリースノート』 (<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)

### ソフトウェアの追加要件

Messaging Server の本番導入では、高性能キャッシュを使用する DNS サーバーがローカルネットワークに必要です。Messaging Server のパフォーマンスは、DNS サーバーの応答性とスケーラビリティに大きく依存します。

また、DNS が適切に設定されており、ローカルサブネット上にないホストへのルーティングが明確に指定されていることを確認してください。

- /etc/defaultrouter には、ゲートウェイシステムの IP アドレスを記述する必要があります。このアドレスはローカルサブネット上に存在する必要があります。
- /etc/resolv.conf が存在し、アクセス可能な DNS サーバー用の適切なエントリとドメインサフィックスが含まれている必要があります。
- /etc/nsswitch.conf ファイルでは、hosts: 行に files、dns、nis キーワードを追加します。キーワード files は、dns と nis の前に記述する必要があります。
- FQDN が /etc/hosts ファイル内の最初のホスト名であることを確認してください。

/etc/hosts ファイル内のインターネットホストテーブルが次のように表示される場合、

```
123.456.78.910 budgie.west.sesta.com
123.456.78.910 budgie loghost mailhost
```

ホストの IP アドレスの行が 1 行だけになるように変更します。最初のホスト名は、完全指定ドメイン名にしてください。

例：

```
123.456.78.910 budgie.west.sun.com budgie loghost mailhost
```

## ファイルシステム

メッセージストアには次のファイルシステムを推奨します。

- **LUFS (Logging UFS)**
- **VxFS (Veritas File System):** Veritas File System は、適切に設定されている場合は、高いシステムパフォーマンスを提供します。VxVM (Veritas Volume Manager) を使用する場合は、ボリュームと、ボリュームのログファイルが定期的に削除されるように設定されているか確認してください。
- **HASStoragePlus File System (Sun Cluster インストール用):** HASStoragePlus File System は、デフォルトの Sun Cluster Global File System よりも優れたパフォーマンスを提供します。

NFS (Network File System) は、次のケースに推奨します。

NFS はメッセージストアがあるマシン上ではサポートされませんが、LMTP が有効になっている場合は特に、または自動返信履歴やメッセージの断片化回避のために、MTA リレーマシン上でこのファイルシステムを使用できます。自動返信機能の詳細については、『Sun Java™ System Messaging Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>) を参照してください。さらに、NFS は、BSD スタイルのメールボックス (/var/mail/) でサポートされます。



## 重要な情報

この節では、主要製品のマニュアルでは述べられていない最新の情報を提供します。次の項目について説明します。

- [互換性に関する問題](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [Messaging Server 6 2004Q2 のマニュアル](#)

## 互換性に関する問題

- iPlanet Delegated Administrator (iDA) は Web Server バージョン 6.0 に対応しています。LDAP ディレクトリが Schema 1 で作成されている場合、iDA で引き続きメールユーザーをプロビジョニングするには、Web Server 6.0 で iDA を使用してください。Web Server 6.1 は iDA をサポートしていません。
- Sun Java System Identity Server (Identity Server) が提供するシングルサインオン (SSO) 機能を推奨しますが、Messaging Server は現在でも以前のバージョンのシングルサインオンもサポートしています。
- Communications Services ユーザー管理ユーティリティ commadmin は、Identity Server と互換性がある LDAP ディレクトリに Messaging Server ユーザーをプロビジョニングする優れた機能を提供します。

Identity Server のサービスは、Messaging および Calendar Server LDAP ユーザーエントリの最小限のプロビジョニングだけを提供します。

Identity Server のサービスインタフェースで入力確認を行わないため、メールを受信できない (受信しないと機能しない) ユーザーエントリの場合は、エラーを報告せずに作成されます。このため、Identity Server のサービスインタフェースは、デモンストレーションを目的とする場合にだけ使用することを推奨します。

- Messaging Server は、異なるユーザーインタフェースで機能する 2 種類のメールフィルタを提供しています。
  - iPlanet Delegated Administrator インタフェースが提供する以前のメールフィルタ
  - Communications Express と Messenger Express が提供する新しいメールフィルタ

2 つのメールフィルタは併用できません。Delegated Administrator でメールフィルタ機能を使用する場合は、Communications Express または Messenger Express のメールフィルタを無効にします。また、Communications Express または Messenger Express メールフィルタを使用する場合は、Delegated Administrator のメールフィルタ機能を使用できません。

## 再配布可能なファイル

Messaging Server 6.0 では、次のファイルを再配布できます。

- ライセンスが許可されている Messaging Server ディストリビューションの次のファイルのみをソース (html および javascript) またはバイナリ形式 (GIF ファイル) で再配布できます。
  - `msg_svr_base/config/html` (サブディレクトリを含む)
  - `msg_svr_base/install/config/html` (サブディレクトリを含む)これらのファイルを単独で配布することは禁止されています。
- 次のヘッダーファイルは、Messaging Server API を使って対話するプログラムを作成および配布する場合、Messaging Server と相互運用または統合するために文書化された API を使用して顧客が作成したコードをコンパイルする場合、および Messaging Server のマニュアルで明示的に説明されている方法を利用する場合にのみ、コピーおよび使用することができます (ただし、変更はできない)。
  - `msg_svr_base/examples/meauthsdk/expapi.h`
  - `msg_svr_base/examples/tpauthsdk/authserv.h`
  - `msg_svr_base/include` ディレクトリ内のすべてのファイル (デフォルトの場所)
- 次のファイルは、文書化された API を使用して Messaging Server と統合するプログラムを記述するときの参照として利用する場合にのみ提供されています。
  - `msg_svr_base/examples/meauthsdk/`
  - `msg_svr_base/examples/tpauthsdk/`
  - `msg_svr_base/examples/mtasdk/`

## Messaging Server 6 2004Q2 のマニュアル

### Messaging Server 関連マニュアル

すべての Messaging Server 6 2004Q2 マニュアルを参照するには、以下の URL にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

Messaging Server 6 2004Q2 の新規マニュアルと更新済みマニュアルは、次のとおりです。

- 『Sun Java™ System Messaging Server リリースノート』(この文書)
- 『Sun Java™ System Messaging Server 配備計画ガイド』
- 『Sun Java™ System Messaging Server 管理ガイド』

- 『Sun Java™ System Messaging Server Administration Reference』
- 『Sun Java™ System Messaging Server Developer's Reference』
- 『Sun Java™ System Messaging Server Messenger Express Customization Guide』

## Communications Services 関連マニュアル

Communications Services 6 2004Q2 関連製品のマニュアルを参照するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

次のマニュアルが参照できます。

- 『Sun Java™ System Communications Services User Management Utility Administration Guide』
- 『Sun Java™ System Communications Services Enterprise Deployment Planning Guide』
- 『Sun Java™ System Communications Services Schema Migration Guide』
- 『Sun Java™ System Communications Services Schema Reference』
- 『Sun Java™ System Communications Services Event Notification Service Guide』
- 『Sun Java™ System Communications Express 管理ガイド』
- 『Sun Java™ System Communications Express Customization Guide』

---

## 既知の問題と制限事項

この節では、Messaging Server 6 2004Q2 に関する既知の問題を説明します。次の内容について説明します。

- [インストール、アップグレード、アンインストールに関する問題](#)
- [Messaging Server に関する問題](#)
- [ユーザー管理ユーティリティ](#)
- [Messenger Express に関する問題](#)
- [ローカライズに関する問題](#)
- [マニュアルに関する問題](#)

## インストール、アップグレード、アンインストールに関する問題

この節では、Messaging Server のインストール、アップグレード、アンインストールに関する既知の問題を説明します。

Directory Server をクラスタ環境で実行すると、`comm_dssetup.pl` コマンドが `stop-slapd` の完了を適切に待機しない (5020179)

`comm_dssetup.pl` スクリプトを Directory Server のクラスタ構成に適用すると、生成されたシェルスクリプトの中で `stop-slapd` を呼び出すのに多少時間がかかるため、呼び出しが即座に戻った場合でも、スクリプトは失敗します。

### 回避策

生成されたシェルスクリプトを編集し、`stop-slapd` を呼び出した後のスリープタイムアウト値を 10 秒程度に設定します。

Messaging Server 6 2003Q4 から Messaging Server 6 2004Q2 にアップグレードし、Messaging Server 6 2003Q4 に戻すと、Messaging Server を実行できない (4992042)

この問題は、次のように操作すると発生します。

- Messaging Server 6 2003Q4 を Messaging Server 6 2004Q2 にアップグレードする
- `patchrm` コマンドを使用して、Messaging Server 6 2004Q2 パッチをバックアウトする。Messaging Server 6 2003Q4 に戻る。次に、`imsimta cnbuild` コマンドを実行して、設定を再コンパイルする
- サーバーを再起動する

以上のように操作した場合、Messaging Server 6 2003Q4 は、新しいバージョンのメッセージストアのデータを読み込めないために起動しません。Messaging Server 6 2004Q2 は Sleepycat Berkeley DB をバージョン 4.2 にアップグレードします。

### 回避策

2つの回避策があります。

#### オプション 1

アップグレードを開始する前に、Messaging Server のデータベースファイルをバックアップします。Messaging Server 6 2004Q2 パッチをバックアウトする場合は、新しいパッチをバックアウトする前に、データベースファイルを復元します。

#### オプション 2

次の手順に従って、Messaging Server 6 2004Q2 を Messaging Server 6 2003Q4 にバックアウトします。

1. stop-msg コマンドを実行して、Messaging Server を停止します。
2. configutil コマンドに次のオプションを指定して、watcher デーモンを無効にします。  
configutil -o local.watcher.enable -v no
3. stored -r コマンドを使用して、メッセージストアのデータベース環境ファイルを削除します。  
コマンドを実行しても、ファイルが削除できない場合は、stored -R コマンドを使用します。このコマンドは、ファイルを強制的に削除します。

4. 次のコマンドを実行して、watcher デーモンを有効にします。

```
configutil -o local.watcher.enable -v yes
```

5. mboxlist ディレクトリのログファイルを削除します。

例:

```
rm -f /var/opt/SUNWmsgsr/store/mboxlist/log.*
```

6. patchrm <patch id> コマンドを実行して、Messaging Server 6 2004Q2 パッケージを削除します。
7. imsimta cnbuild コマンドを実行します。
8. start-msg コマンドを実行して、Messaging Server を起動します。

このバージョンの Messaging Server では、対称 HA 環境で、停止時間を最小化する段階的なローリングアップグレードをサポートしない (4991650)

Messaging Server 5.2 では、同じコンピュータに Messaging Server を何回かインストールし、各インストールに別のパッチを当てることができました。そのため、停止時間を最小化する段階的なローリングアップグレードが可能でした。Messaging Server 6 2004Q2 はこの機能をサポートしていません。

ユーザー管理ユーティリティ (commadmin) のアップグレードパッチをバックアウトすると、User Calendar Service がバックアウトされない (4976453)

commadmin アップグレードパッチバージョン 6.1 (6 2004Q2) をバックアウトしても、UserCalendarService の定義がバージョン 6.0 (6 2003Q4) に戻りません。UserCalendarService の定義は、手動でのバックアウトだけが可能です。

#### 回避策

UserCalendarService の定義を手動でバックアウトするには、次のコマンドを実行します。

```
# cd /opt/SUNWcomm/lib/services/  
# /opt/SUNWam/bin/amadmin -u admin_login -w password -t deletecaluserAttributes.xml
```

*admin\_login* - Identity Server 管理ユーザー

*password* - Identity Server 管理パスワード

amadmin コマンドには、Identity Server の bin ディレクトリへのフルパスを指定する必要があります。

UserCalendarService の定義を手動で戻さずに、パッチを 2 回実行すると、2 回目は変更がすでに適用されているためにエラーが記録されます。

Messaging Server が Sun™ Cluster 3.0 Update 3 で起動しない (4947465)

Messaging Server のクラスタエージェントは、Sun Cluster 3.0 Update 3 の問題によりコアダンプします。この問題を解決するには、Sun Cluster 3.1 を使用してください。

インストーラが MS 6 に iPlanet Delegated Administrator (iDA) CGI のパスを適切に設定しない (4929552)

iDA をインストールすると、デフォルトの CGI パスが msg-<servername>/Tasks/operation に設定されます。正しいパスは msg-config/Tasks/operation です。不適切なパスが設定されると、CLI からユーザーをページングする際、スローエラーが発生します。

#### 回避策

iDA をインストールする場合、デフォルトの CGI パスを msg-<servername>/Tasks/operation から msg-config/Tasks/operation に変更します。正しいパスを設定すれば、CLI からユーザーをページングしてもエラーは発生しません。

Messaging Server 6.0 で、エンドユーザーが各自のメーリングリストを管理できない (4904736)

Sun Java System Messaging Server 6.0 は、エンドユーザーが自分のメーリングリストを管理できるような Web ベースのツールなしで出荷する予定です (iPlanet Messaging Server 5.2 に関連した変更)。

#### 回避策

- メーリングリストの拡張と管理には、Mailman (<http://www.list.org/>) または Majordomo (<http://www.greatcircle.com/majordomo/>) などの、サードパーティの製品をインストールしてください。

- また、Sun Java System LDAP Schema 2 ではなく、LDAP Schema 1 を使用してください。LDAP Schema 1 は、iPlanet Delegated Administrator for Messaging のグラフィカルユーザーインターフェースに対応しています。Schema 1 では、ディレクトリを直接作成して Delegated Administrator 互換の LDAP エントリを作成することもできます。詳細については、『iPlanet Messaging Server 5.2 Provisioning Guide』と『iPlanet Messaging and Collaboration 5.2 Schema Reference』を参照してください。

Directory Server 5.1 が単一のメール属性値しか受け入れないため、複数のメール属性値を含む Netscape Directory Server 4.16 の PAB エントリを Directory Server 5.1 に移行できない (4869706)

これらのエントリを追加とすると、オブジェクトクラス違反が発生します。

#### 回避策

PAB エントリを Netscape Directory Server 4.16 から Directory Server 5.1 に移植する場合は、スキーマ検査をオフにしてください。

## Messaging Server に関する問題

この節では、Messaging Server 製品の既知の問題について説明します。

option.dat で #、!、または ; で始まる行がコメント行とみなされる (バグ ID なし)

option.dat ファイルでは、Messaging Server はポンド記号 (#)、感嘆符 (!)、またはセミコロン (;) で始まる行をコメント行と見なします。先行する行の末尾に円記号 (¥) が付いており、行が続くことが指定されていても、Messaging Server は、各記号が付いた行をコメント行と見なします。そのため、これらの文字を含む長いオプション (特に、配信オプション) を使用する場合は、注意が必要です。

配信オプションの場合は、そのままでは # または ! で始まる継続行になってしまいますが、次の回避策を参照してください。

#### 回避策

配信オプションの場合、Messaging Server は、配信オプションタイプを区切るコンマに続く空白文字を無視します。

たとえば、次のようには記述しません。

```
DELIVERY_OPTIONS=¥
#*mailbox=@$X.LMTP:$M$_+$2S%$¥$2I@ims_daemon,¥
#&members=*,¥
*native=@$X.lmtpnative:$M,¥
*unix=@$X.lmtpnative:$M,¥
/hold=$L%$D@hold,¥
*file=@$X.lmtpnative:+$F,¥
&@members_offline=*,¥
program=$M$P@pipe-daemon,¥
forward=**,¥
*^!autoreply=$M+$D@bitbucket
```

この問題を解決するには、次のように空白を追加します。

```
DELIVERY_OPTIONS=¥
    #*mailbox=@$X.LMTP:$M$_+$2S%$¥$2I@ims_daemon,¥
    #&members=*,¥
    #*native=@$X.lmtpnative:$M,¥
    #*unix=@$X.lmtpnative:$M,¥
    #/hold=$L%$D@hold,¥
    #*file=@$X.lmtpnative:+$F,¥
    #&@members_offline=*,¥
    #program=$M%$P@pipe-daemon,¥
    #forward=**,¥
    #*^!autoreply=$M+$D@bitbucket
```

**DOMAIN\_UPLEVEL が変更された (バグ ID なし)**

DOMAIN\_UPLEVEL のデフォルト値が 1 から 0 に変更されました。

**ユーザー ID に次の文字を使用できない:\$ ~ = # \* + % ! @ , { } ( ) / < > ; : " ` [ ] & ? (バグ ID なし)**

これは、ダイレクト LDAP モードで操作しているときの MTA による制約です。ユーザー ID にこれらの文字を使用できるようにすると、メッセージストアで問題が発生することがあります。MTA で禁止されている文字のリストを変更したい場合は、ASCII 値をコンマで区切って文字列を指定することで、次のオプションを設定します。

```
LDAP_UID_INVALID_CHARS=32,33,34,35,36,37,38,40,41,42,43,44,47,58,59,60,61,62,63,64,91,92,93,96,123,125,126
```

これは、*msg\_svr\_base/config/options.dat* ファイルに指定します。この制約を緩和することはお勧めしません。

**NFS がメールストアでサポートされていない (バグ ID なし)**

NFS による認証は完成していないため、NFS はメッセージストアでサポートされていません。

**(msprobe) サーバー応答に対するデフォルトのタイムアウトが小さすぎる (5064135)**

サーバー応答に対する msprobe 待機のデフォルトタイムアウトは、10 秒です。このデフォルト値は configutil パラメータの service.readtimeout で設定されていますが、小さすぎます。

一般に、このタイムアウト値は、少なくとも 30 秒に設定しなければなりません。

SMTP では、受信接続で DNS リバース検索を実行するように Messaging Server を設定しているのに、DNS が実行されていない場合、SMTP バナーは表示されるまで約 2 分かかります。そのため SMTP の場合は、タイムアウト値を 120 秒以上に設定する必要があります。

#### 回避策

configutil パラメータ service.readtimeout を 2 分、または tcp\_ip スタックタイムアウト値よりも大きい値に設定します。



**メッセージの作成日時が誤って報告される (5046988)**

メッセージ名は、MTA のキューに入るとき、オリジナルのメッセージが作成された日付が符号化されます。符号化されたメッセージ名が適切に復号化されないことがあります。この問題は、QM が出力する情報とメッセージ作成日時に影響を与えます。作成日時はメッセージがシステムに存在する時間を計算する際に使用されるため、この値が間違っていると、メッセージがまったく配信されないことがあります。

**メッセージストアプロセス (mshttpd など) がクラッシュした場合、コアファイルが作成されない (5046327)**

Messaging Server のディレクトリは、インストール後、mailsrv ではなく bin が所有します。その結果、プロセスがクラッシュした場合、コアファイルが作成されません。

**回避策**

1. /tmp やログディレクトリなど、mailsrv が書き込み可能なディレクトリでプロセスを開始します。
2. 使用しているプラットフォームで coreadm を利用できる場合は、coreadm を使用して、コアファイルを mailsrv で書き込み可能な既知の場所にリダイレクトしてください。

**プロキシサーバーの使用時に、Internet Explorer 6.0 SP1 から Messaging Server にログインできない (5043607)**

PC 上で IE 6.0 SP1 をクライアントとして使用すると、Messaging Server にログインできないことがあります。この問題は、プロキシサーバーが標準に準拠していないことが原因であるため、Messaging Server では解決できません。

**インストーラによって作成された msg-admin-xxx ユーザーに、mailuserstatus または maildomainstatus 属性を変更する権限がない (5033014)**

msuserpurge ユーティリティと MTA 容量の強制的な割り当て機能を使用する場合、mailuserstatus と maildomainstatus 属性を変更するアクセス権限が要求されます。

**回避策**

Messaging Server エンドユーザー管理グループの aci を変更して、mailuserstatus と maildomainstatus 属性に対する書き込み権限を有効にします。

適切な書き込み権限を付与する aci を記述した ldif ファイルの例を次に示します。<local.ugldapbasedn> には、ユーザーやグループのサフィックスを記述してください。

```
# attribute of objectclass top
dn: <local.ugldapbasedn>
changetype:modify
add:aci
aci: (target="ldap:///<local.ugldapbasedn>")
(targetattr="objectclass" | mailalternateaddress | mailautoreplymode |
| mailprogramdeliveryinfo | nswmextendeduserprefs | preferredlanguage |
| maildeliveryoption | mailforwardingaddress | mailAutoReplyTimeout |
| mailautoreplytextinternal | mailautoreplytext | vacationEndDate | vacationStartDate
|
| mailautoreplysubject | pabURI | maxPabEntries | mailMessageStore | mailSieveRuleSour
```

```
ce|
|sunUCDateFormat||sunUCDateDeLimiter||sunUCTimeFormat||mailuserstatus|
|maildomainstatus")
(version 3.0; acl "Messaging Server End User Administrator Write Access Rights -
product=ims5.0,class=installer,num=101,version=1"; allow (all)
groupdn="ldap:///cn=Messaging End User Administrators Group, ou=Groups,
<local.ugldapbasedn>";)
```

### 証明書データベースを最新の Mozilla ブラウザで編集すると、SSL が中断する (5030342)

証明書データベースファイル (cert8.db) は、Mozilla ブラウザ、または他の NSS ツールなど Sun Microsystems がビルドして配布していないツールで編集しないでください。これらのツールを使用すると、データベースが破損することがあります。

Java Enterprise System 2004Q2 は NSS バージョン 3.3.x でパッケージ化されています。Messaging Server は、このバージョンの NSS を使用して、SSL 証明書を処理します。Mozilla TIP クライアントは、NSS 3.9 コンポーネントを使用しているため、Mozilla で cert8.db を作成または編集しても、cert8.db ファイル形式が一致しません。その結果、SSL 通信に失敗します。

### 形式の間違った pabURI 属性により、mshttpd のコーリングが発生する (5003127)

pabURI 属性の形式を間違えると、mshttpd のコーリングが発生します。

#### 回避策

LDAP ディレクトリに pabURI エントリを正確に記述します。

### クライアントベースの SSL には、適切な内容の certmap.conf ファイルが必要 (4967344)

certmap.conf 設定ファイルには、証明書を LDAP ディレクトリのエントリにマップする方法を指定します。デフォルトでは、2 行をコメントアウトした証明書の件名には、LDAP ディレクトリエントリの正確な DN が記述されています。

ただし、証明書の件名から特定の属性を抽出し、ディレクトリからその属性を検索する方法も、よく使用されます。

#### 回避策

後者の方法を使用する場合は、次のように変更します。

```
certmap default          default
#default:DNComps
#default:FilterComps    e, uid
```

以上の記述を次のように変更します。

```
certmap default          default
default:DNComps
default:FilterComps     e
```

---

**注** certmap.conf の詳細については、『Sun Java System Server Console 5.2 Server Management Guide』を参照してください。

---

jobc を起動しても、これからはチャンネルが停止したことが表示されなくなる (4965338)

Messaging Server 5.2 では、#imsimta qm summarize コマンドを発行すると、imsimta qm stop <chan> コマンドで停止したチャンネルが表示されました。

この動作は 6.0 で変更されました。チャンネルをまだ使用していない場合、0 行の応答は返されず、停止したチャンネルは表示されません。メッセージは、その状態を無視して記録されます。

imsimta cache -walk -debug=15 でエラーメッセージが表示される (4964696)

imsimta cache -walk -debug=15 コマンドは正常に機能しますが、「Unknown command specified」というエラーメッセージが表示されます。

return\_debug=1 からの出力が失われる (4957856)

以前のリリースでは、return\_debug=1 の出力は、job\_controller.log に記録されていました。

Messaging Server 6.0 のスケジューラプログラムは、return ジョブを実行しますが、出力をログファイルに送信しません。

Internet Explorer 6.0 でエンコードの自動選択を有効にしていると、韓国語の PAB テキストが文字化けする (4951813)

preferredlanguage=ko でユーザーを作成した場合に、Internet Explorer 6.0 を使用したとき、「表示」 - 「エンコード」 - 「自動選択」を選択し、ko ユーザーで Webmail にログインして、「Addresses」ページを開くと、文字化けします。

#### 回避策

自動選択を無効にしてから、「Addresses」ページを再度開いてください。テキストは適切に表示されます。

---

**注** 中国語版と日本語版では、自動選択は有効に機能します。

---

サイトでユーザー証明書を使用するように設定していなくても、ユーザー証明書の警告メッセージがポップアップされる (4943648)

SSL 証明書をインストールして、すべてのサービスで SSL モードの使用を有効に設定します。その後、「https://FQDN」を指定してセキュアな Web メールポートに接続し、サイトの証明書をセキュリティ設定にインストールします。このように設定すると、警告メッセージが表示されます。次のようなメッセージが表示されます。「User Authentication is required.」「OK」をクリックすると、操作を継続できます。

これは既定の動作です。証明書データベースのサーバー証明書に信頼できる証明書発行局 (CA) のフラグが立っていると、サーバーはクライアント証明書を要求します。

#### 回避策

- サーバーまたはブラウザの設定からルート CA を削除します。
- Server-Cert の属性を CA 以外に変更します。

- `<configdir>/certmap.conf` ファイルの名前を変更するか削除します。

「証明書の管理」ウィザードで、Messaging Server/Configuration に SSL (Secure Sockets Layer) 証明書が作成されない (4939810)

「管理サーバー」 - 「Messaging Server」 - 「タスク」 - 「証明書の管理」を選択し、「証明書の管理」オプションを使用して SSL 証明書要求を作成する場合、証明書の管理ウィザードは、証明書と鍵データベースを `Admin_Server_Root/alias` 領域ではなく `Messaging_Server_Base/config` 領域に作成します。また、ファイルのプレフィックスは、`msg-config` 値 (`msg-config-cert7.db` と `msg-config-key3.db`) から `NULL` (`cert7.db` と `key3.db`) に変更されます。

#### 回避策

- 適切なアクセス権と所有権を使用して、`msg-config-cert7.db` と `msg-config-key3.db` ファイルを `Admin_Server_Base/alias` 領域から `Messaging_Server_Base/config` 領域にコピーし、ファイル名を `cert7.db` と `key3.db` に変更します。
- `Messaging_Server_Base/config` 領域で使用していた適切なアクセス権と所有権を使用して、これらのファイルのソフトリンクを `Admin_Server_Base/alias` 領域に作成します。

アラビア語およびヘブライ語ユーザーに対する Webmail のデフォルト動作が、バージョン 5.2 から変更された (4933096)

`preferredlanguage=ar` のユーザーとしてログインすると、ユーザーインタフェースが右から左ではなく、左から右に表示されます。

#### 回避策

1. `/var/msg_svr_base/config/html/en` をコピーして、`/var/msg_svr_base/config/html/ar` ディレクトリを作成します。
2. `/var/msg_svr_base/config/html/ar/i18n.js` に次の 1 行を追加します。

```
i18n['dir'] = 'rtl' (just above i18n['fontface'] = 'PrimaSans  
BT,Verdana,sans-serif')
```

MMP クライアントの証明書検索が Schema 2 ではなく、Schema 1 に対応している (4918256)

MMP クライアント証明書機構は、Schema 2 ドメインモデルをサポートしていません。MMP クライアント証明書検索は、iPlanet Delegated Administrator が作成した Schema 1 モデルのサブセットに限定されます。Schema 1 では、DC ツリーのノードへのポインタを持つ組織ツリーのドメインノードの `ou=People` 下に記述する必要があります。

`imsimta start` がディスプレイおよびジョブコントローラを開始しない (4916996)

`imsimta start`、`imsimta restart`、`imsimta refresh` コマンドは、`watcher` プロセスが実行されていないと機能しません。

---

**注** 新しい start-msg と stop-msg コマンドが、imsimta start および imsimta stop と置き換えられました。後者は推奨されなくなったため、将来のリリースで削除される予定です。

start-msg と stop-msg コマンドの詳細については、『Messaging Server 管理ガイド』を参照してください。

---

#### XSTA、XADR コマンドがデフォルトで有効になっている (4910371)

インストールが完了したときには、SMTP 拡張コマンド XSTA と XADR がデフォルトで有効に設定されるため、リモートユーザーとローカルユーザーが機密情報を取得できることがあります。

##### 回避策

imta/config/tcp\_local\_options ファイルを必要に応じて作成し、次の行を追加して、XSTA と XADR コマンドを無効にします。

```
DISABLE_ADDRESS=1
DISABLE_CIRCUIT=1
DISABLE_STATUS=1
DISABLE_GENERAL=1
```

#### 個人アドレス帳で、自宅電話番号の検索ができない (4877800)

個人用アドレス帳は、会社電話番号属性のみの「電話番号」を基にして検索を行います。自宅または携帯電話番号の検索には、「電話番号」は使用できません。

#### 管理コンソールからユーザーを作成できない (4852026 および 4852004)

Messaging Server では、管理コンソールを使用してユーザーまたはグループを作成することができなくなりました。ユーザーエントリとグループエントリは、ユーザー管理ユーティリティを使用して作成する必要があります。管理コンソールを使用して作成したユーザーとしてログインするか、そのようなユーザーにメールを送信すると、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Quota root does not exist
```

```
4.0.0 temporary error returned by alias expansion: . . ."
```

Sun Cluster リソース間に間接的な依存関係がすでに存在する場合、scds\_hasp\_check() によって、HASStoragePlus がそのような既存の設定でサポートされない場合がある。(4827911)

これは Sun Cluster 3.0 Update 3 で発生します。

##### 回避策

HASStoragePlus リソースの既存のリソースに弱い依存関係を作成します。

#### Messenger Express Multiplexor (MEM) に、OS リゾルバを NSCD として利用する設定オプションがない (4823042)

##### 回避策

MX と A レコードのキャッシュの利点を活かすために、システムをキャッシュ専用の DNS サーバーとして設定します。

25,000 を超えるサブフォルダを含むメールボックスでは、MoveUser が動作しない (4737262)  
25,000 を超えるサブフォルダを含むメールボックスを持つユーザーのアカウントを移動すると、MoveUser ユーティリティが停止することが報告されています。

/etc/hosts ファイルに省略形のドメインがあると、アクセス制御フィルタが動作しない (4629001)  
/etc/hosts ファイルに省略形のドメイン名があると、アクセス制御フィルタでホスト名を使用するときに問題が発生します。IP アドレス検索が省略形のドメイン名を返すと、照合は失敗します。そのため、/etc/hosts ファイルには必ず完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してください。

syslog で TCP\_IOCTL\_ABORT\_CONN による接続中断 (4616287)  
Solaris 8 U7 または Solaris 9 オペレーティングシステムで Sun Cluster 3.1 を実行する HA 設定に対してフェイルオーバーが発生し、アクティブな TCP 接続が TCP\_IOCTL\_ABORT\_CONN ioctl で中断された場合、コンソールとシステムログに次のようなメッセージがログに記録されます。

```
Jul 24 16:41:15 shemp ip:TCP_IOCTL_ABORT_CONN:local = 192.018.076.081:0,  
remote = 000.000.000.000:0, start = -2, end = 6  
Jul 24 16:41:15 shemp ip:TCP_IOCTL_ABORT_CONN:aborted 0 connection
```

これらのメッセージは情報を提供するだけであり、デバッグモード以外では表示されません。

IMAP メールクライアントとして Microsoft Outlook Express を使用している場合に、既読フラグと未読フラグが正しく機能しないことがある。これは、Microsoft Outlook Express クライアントの既知の問題である (4543930)

この問題に対処するには、以下のように設定変数を設定します。

```
configutil -o local.imap.immediateflagupdate -v yes
```

この方法を使用してパフォーマンス上の問題が発生した場合は、使用を中止することをお勧めします。

configutil を使用して加えた変更を反映させるために、該当のサーバーを再起動しなければならないことがよくある (4538366)

管理サーバーのアクセス制御ホスト名で大文字と小文字を区別する (4541448)

管理サーバーの「アクセスを許可するホスト名」を設定すると、アクセス制御リストで大文字と小文字が区別されます。DNS サーバーが IN-ADDR レコード (IP アドレスからドメイン名への変換に使用される) で大文字と小文字が混在するホスト名を使用している場合は、アクセス制御リストでも同様のホスト名を使用する必要があります。たとえば、ホストが test.Sesta.Com の場合は、アクセス制御リストに \*.Sesta.Com を記述する必要があります。この問題のため、\*.sesta.com は有効ではありません。

たとえば、ユーザー / グループのベースサフィックスが `o=isp` の場合、サービス管理者グループの DN は `cn=Service Administrators,ou=groups,o=isp` になります。アカウント `uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp` をサービス管理者として指定するには、このアカウントの DN をグループに追加する必要があります。以下の変更レコードでは、指定したユーザーが LDIF でグループメンバーとして追加されています。

```
dn:cn=Service Administrators,ou=groups,o=isp
changetype:modify
add:uniquemember
uniquemember:uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp
```

さらに、ユーザーにサービス管理者権限を与えるには、ユーザーエントリに `memberof` 属性を追加し、この属性をサービス管理者グループに設定する必要があります。次に例を示します。

```
dn:uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp
changetype:modify
add:memberof
memberof:cn=Service Administrators, ou=groups, o=isp
```

#### MMP BadGuy 設定パラメータ `BGExcluded` が動作しない (4538273)

##### 回避策

BadGuy ルールから除外されているクライアントを処理する、別の MMP サーバーを配備します。これらのサーバーでは BadGuy をオフにする必要があります。

#### Directory Server バージョン 5.x の ACI により、LDAP 検索パフォーマンスに影響がある (4534356)

この問題は、Messaging Server で実行する多くの検索に影響します。検索の速度を上げるには、以下のコマンドを実行してディレクトリマネージャの資格を使用しディレクトリにアクセスします。

```
msg_svr_base/sbin/configutil -o local.ugldapbinddn -v "rootdn" -l
msg_svr_base/sbin/configutil -o local.ugldapbindcred -v "rootdn_passwd" -l
```

ここで、`rootdn` と `rootdn_passwd` は、Directory Server の管理者の資格を示します。

#### Sun Cluster 3.0 Update 3 を有効にすると、無意味なエラーメッセージが表示されることがある (4490877)

High Availability サービスを起動したときや、High Availability (HA) サービスをあるノードから別のノードに切り替えたときに、Sun Cluster コンソールと `/var/adm/messages` に、次のようなエラーメッセージが表示されます。このメッセージは無視してください。

```
Cluster.PMF.pmf:Error opening procfs control file </proc/20700/ctl> for tag
<falcon,habanero_msg,4.svc>:No such file or directory
```

## ユーザー管理ユーティリティ

この節では、Communications Services のユーザー管理ユーティリティの既知の問題を説明します。

Schema 2 互換モードの LDAP ディレクトリで、`commadmin` ユーティリティを実行できるようにするには、**手動の手順が必要 (5042801)**

Schema 2 互換モードの LDAP ディレクトリで `commadmin` を実行できるようにするには、以下の手順を手動で実行する必要があります。

### 回避策

以下の 6 つの手順を実行します。

1. 以下の 2 つの ACI を OSI ルートに追加します。2 つの ACI は、`/opt/SUNWcomm/config` ディレクトリの `usergroup.ldif` ファイルにあります。

`ugldapbasedn` には、ユーザーグループのサフィックスを記述します。編集した `usergroup.ldif` を LDAP ディレクトリに追加します。

```
#
# acis to limit Org Admin Role
#
#####
# dn: <local.ugldapbasedn>
#####
dn:<ugldapbasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///($dn),<ugldapbasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "Organization Admin Role access deny to org node"; deny
(write,add,delete) roledn = "ldap:///cn=Organization Admin Role,($dn),<ugldapbasedn>");

dn:<ugldapbasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///($dn),<ugldapbasedn>") (targetattr="*") (version 3.0; acl
"Organization Admin Role access allow read to org node"; allow (read,search) roledn =
"ldap:///cn=Organization Admin Role,($dn),<ugldapbasedn>");
```

2. 以下の 2 つの ACI を DC Tree のルートのサフィックスに追加します。2 つの ACI は、`/opt/SUNWcomm/config` ディレクトリの `dctree.ldif` ファイルにあります。

`dctreebasedn` には DC Tree のルートのサフィックス、`ugldapbasedn` にはユーザーグループのサフィックスを記述します。編集した `dctree.ldif` を LDAP ディレクトリに追加します。

```
#
# acis to limit Org Admin Role
#
#####
# dn:<dctreebasedn>
```



```
#####
```

```
dn:<dctreebasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap://($dn),<dctreebasedn>")(targetattr="*")
(version 3.0; acl "Organization Admin Role access deny to dc node";
deny (write,add,delete) roledn = "ldap:///cn=Organization Admin
Role,($dn),<ugldapbasedn>");
```

```
dn:<dctreebasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap://($dn),<dctreebasedn>")(targetattr="*")
(version 3.0; acl "Organization Admin Role access allow read to dc node"; allow
(read,search) roledn = "ldap:///cn=Organization Admin Role,($dn),<ugldapbasedn>");
```

3. 以下の追加の ACI を DC Tree のルートのサフィックスに追加します。この ACI は、dctree.ldif ファイルにはありません。

```
dn:<dctreebasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///<dctreebasedn>")(targetattr="*")
(version 3.0; acl "S1IS Proxy user rights"; allow (proxy)
userdn = "ldap:///cn=puser,ou=DSAME Users,<ugldapbasedn>");
```

```
dn:<dctreebasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///<dctreebasedn>")(targetattr="*")
(version 3.0; acl "S1IS special dsame user rights for all under the root suffix"; allow
(all) userdn = "ldap:///cn=dsameuser,ou=DSAME Users,<ugldapbasedn>");
```

```
dn:<dctreebasedn>
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///<dctreebasedn>")(targetattr="*")
(version 3.0; acl "S1IS Top-level admin rights";
allow (all) roledn = "ldap:///cn=Top-level Admin Role,<ugldapbasedn>");
```

4. AMConfig.properties ファイルの com.iplanet.am.domaincomponent プロパティを DC ツリーのルートサフィックスに設定します。たとえば、<IS\_base\_directory>/lib/AMConfig.properties ファイルにある次の行を次のように変更します。

変更前

```
com.iplanet.am.domaincomponent=o=isp
```

次のように変更します。

```
com.iplanet.am.domaincomponent=o=internet
```

5. Identity Server を互換モードで使用できるようにします。Identity Server コンソールを起動し、「管理」サービスページの「ドメインコンポーネントツリーを有効」チェックボックスをオンにします。

6. inetdomain オブジェクトクラスを DC ツリーの dc=com,o=internet などの全ノードに追加します。次に例を示します。

```
/var/mps/serverroot/shared/bin 298% ./ldapmodify -D "cn=Directory Manager" -w password
dn:dc=com,o=internet
changetype:modify
add:objectclass
objectclass:inetdomain
```

7. Web コンテナを再起動します。

**ドメイン管理者はサービスをドメインに追加および削除したり、ドメインの属性を変更したりできる (5026945)**

ドメイン管理者は、ドメインの属性を変更する権限を持つべきではありません。

ユーザー管理ユーティリティ commadmin を Java Enterprise System 2004Q2 に初めてインストールした場合、この問題は発生しません。config-iscli プログラムで commadmin を設定すると、適切な usergroup.ldif ファイルが自動的に追加されます。

しかし、バージョン 6.0 (6 2003Q4) のユーザー管理ユーティリティ (commadmin) を使用するか、commadmin をバージョン 6.0 (6 2003Q4) からバージョン 6.1 (6 2004Q2) にアップグレードすると、この問題が発生します。

#### 回避策

ACI を取得して、ドメイン管理者の権限を適切に制限するには、次の手順を実行します。

1. /opt/SUNWcomm/config ディレクトリにある usergroup.ldif ファイルを開き、テンプレート ldif の `ugldapbasedn` をユーザーグループのサフィックスに置換します。
2. 編集した usergroup.ldif を LDAP ディレクトリに追加します。

commadmin を Application Server で配備する場合、設定プログラム config-iscli の実行後に、commadmin を設定する必要がある (5015063)

設定が完了すると、設定ユーティリティは、Identity Server が使用する WAR ファイルを手動で Web コンテナに配備し、クラスパスを変更するよう求めます。

#### 回避策

Application Server を Web コンテナに使用して、commadmin を適切に設定するには、次の手順に従います。

1. commadmin を設定した後、Application Server の設定ディレクトリで server.xml ファイルを探します。server.xml ファイルは、デフォルトで次のディレクトリに格納されています。

```
/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/config
server-classpath を探して、次の 1 行を追加します。
```

```
app-server-root/domains/domain1/server1/applications/j2ee-modules/commcli_1/WEB-INF/classes
```

2. war ファイルを次のようにして配備します。

```
cd /opt/SUNWappserver7/bin
./asadmin deploy --user "admin user name" --password "admin user password"
--host hostname --port 4848 --name commcli --contextroot
commcli /opt/SUNWcomm/lib/jars/commcli-server.war
```

3. 次のようにして Application Server を再起動します。

```
cd /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/bin
./stopserv ; ./startserv
```

### ASCII 以外のグループを変更できない (4934768)

ASCII 以外の文字を含むグループ名を使って作成されたグループは、`commadmin group modify` コマンドを使っても変更できません。

たとえば、`commadmin group create` コマンドの `-G` オプションに対して ASCII 以外の文字を含むグループ `XYZ` を指定すると、`XYZ` のメールアドレスはそのグループの LDAP エントリに自動的に追加されます。ASCII 以外の文字はメールアドレスでは許可されないため、`commadmin group modify` を使ってグループを変更しようとしても失敗します。

#### 回避策

グループを作成するときは、`-E email` オプションを使用してください。このオプションには、グループのメールアドレスを指定します。例:`commadmin group create -D admin -w password -d siroe.com -G XYZ -S mail ¥ -E testgroup@siroe.com`。

### 複数の `-f` オプションでグループを作成しても、1 つの属性しか追加されない (4931958)

ダイナミックグループを作成するために複数の `-f` オプションを `commadmin group create` コマンドに指定しても、最後の `-f` オプションに指定した値だけが LDAP エントリに追加されます。ほかの値は追加されません。

#### 回避策

`commadmin group create` コマンドを使用するときは、複数の `-f` オプションを指定しないでください。

## Messenger Express に関する問題

この節では、Messenger Express 製品の既知の問題について説明します。

### 「上へ」と「下へ」ボタンが削除された (バグ ID なし)

フィルタのソート方法を指定する「上へ」と「下へ」ボタンが削除されました。

### プロキシサーバー設定を使用していると、Internet Explorer 6 で WebMail が表示されない (4925995)

#### 回避策

Internet Explorer のエンコードメニューの「自動選択」を有効または無効にします。サーバーに直接接続するか、別のプロキシサーバーに切り替えてください。

### 「詳細メールフィルタ条件」ウィンドウから機能が削除された (4908625)

フィルタのタイムフレームを指定する機能は、Messaging Server 6.0 パッチ 1 リリースの「詳細メールフィルタ条件」ウィンドウ (「メールフィルタ」ユーザーインタフェースの) から削除されました。この機能は、配下のサポートを利用できないために削除されました。

### 既存のグループ内にグループを作成すると、次のエラーが発生することがある。

pab::PAB\_ModifyAttribute: ldap error (No Such object). (4883651)

### Directory Server 5.1 以降では、個人アドレス帳の単一の連絡先に複数の電子メール ID を入力できない (4633171)

Directory Server の適切な動作です。複数の電子メール ID を入力できるのは、Netscape Directory Server 4.x の問題が原因です。

## ローカライズに関する問題

この節で説明する既知の問題は、国際化 (i18n) と地域対応化 (l10n) だけに関係する問題ではありません。

### (Linux) オンラインヘルプを開こうとすると、Messaging Server コンソールにエラーが表示される (5054732)

(Linux B11b): クライアントディテクション編集ウィンドウで、スタイルおよびデバイスが失われる (5053850)

### (Linux) 設定プログラムを GUI モードで実行すると、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語の文字が文字化けする (5049404)

J2SE 1.4.2 では、RedHat Advanced Server 2.1 上で、アジア系文字の特定の AWT コンポーネントを表示できません。

(フランス語) メールフィルタで、キーワード「any」および「all」が正しく変換されていない (5046722)

Messenger Express のメールフィルタで、条件間のキーワード「all」が「or」として動作する (5046720)  
Communications Express では、メールフィルタが正しく動作します。この問題は、推奨されなくなった Messenger Express だけで発生します。

(I10n\_ja) OLH で、一部のメッセージが更新またはローカライズされない (5046617)

管理コンソールで、アクセスフィルタの キーワード ALL および EXCEPT は英語にしなければならない (5046034)

この問題は、アクセスフィルタの定義方法を説明する Messaging Server 管理コンソールの例にあります。キーワード ALL および EXCEPT が誤って翻訳されています。これらのキーワードは、「ALL」および「ALL EXCEPT」のように英語のままであればなりません。

管理コンソールのオンラインヘルプがブラウザでローカライズされていない (5045955)

(I10n-ko) ダイアログに関する複数の検索が、初回実行後、ロードに失敗する (5045055)

回避策

インターネット一時ファイルをクリアします。

(I10n-ko) 「Addresses」 ページが、初回実行後、ロードに失敗する (5045050)

回避策

インターネット一時ファイルをクリアします。

(i18n) 韓国語のスペルチェックはサポートされていない (5045043)

(I10n-ko) WebMail OLH で、webmail.gif がローカライズされていない (5045041)

(ドイツ語)

(ドイツ語) アドレス帳でグループが作成できない (5044669)

アドレス帳の検索ウィンドウから連絡先を追加できない (5044609)

回避策

連絡先は検索せずに、直接追加してください。

(ja\_only) オンラインヘルプのインデックスページで、日本語文字のアルファベットにインデックスがない (5040407)

検索結果から呼び出したメッセージウィンドウでアドレスを追加すると、JS エラー (5038872)

「フォルダ」タブをクリックすると、メッセージがポップアップする (5038438)

回避策

zh ではなく、preferredLanguage=zh-CN を設定してください。

メール検索ダイアログで「TRASH」がローカライズされていない (5035064)

簡体字中国語および繁体字中国語で、Messaging Server 設定 CLI 中に、翻訳されていない箇所がある (5034466)

検索機能から、新規グループにメンバーを追加できない (5032727)

(i18n) 新規連絡先ページで「OK」ボタンを押しても閉じず、JavaScript エラーが発生する (5032134)

(i18n) 管理コンソール: メッセージストア: ja ロケールで有効期限ポリシーを作成できるが、マルチバイト文字が文字化けする (5031308)

*回避策*

シングルのバイト文字だけを使用してください。

(i18n) リモートディレクトリを表示した管理コンソールで、ヘルプエラーが表示される (5029459)

(i18n) 外部メールの取り込みで間違ったパスワードを入力すると、ローカライズされていないエラーメッセージが表示される (5017071)

(i18n) 新規メッセージを HTML テキストで作成していると、箇条書き、または番号付きリストを使用したときにインプットメソッドが使用できない (5016484)

*回避策*

複数バイト文字がすでに入力されている場合は、カーソルを別の行に移動してください。

(i18n) 不正な電子メールアドレスにメールを送信すると、エラーメッセージが文字化けする (5013576)

(i18n) フォルダタブで、デフォルトのフォルダがソートされない (5013572)

(i18n) Web サーバーが ko などの別のロケールで起動すると、韓国語にローカライズされたメールフィルタページが、preflang 設定とは関係なくすべてのユーザーに対して表示される (5012270)

*回避策*

Web サーバーを C ロケールで起動してください。

comm\_dssetup.pl スクリプトがローカライズされていない (4994764)

日本語の配信レポートが文字化けしている (4985907)

(i18n) POP メッセージを受信したときに表示される警告ダイアログボックスで文字化けしている (4951972)

*回避策*

Mozilla ブラウザを使用すると正確に表示できます。

リセットボタンをクリックすると、「新規ユーザー用グリーティングフォーム」言語プルダウンメニューが英語で表示される (4914441)

(i18n) アジア系ユーザーの初期状態の日時形式が年 . 月 . 日となっていない (4908619)

*回避策*

Web メールにログインして、オプション設定で適切な日時形式に変更してください。

(i18n) 新規の連絡先を作成すると、アジア系ローカルユーザーでも、「Lastname」テキストボックスが「Firstname」テキストボックスの前に配置される (4906295)

(i18n) HTML テキストで新規メッセージを作成するときは、ローカルフォント名をフォントリストに追加する必要がある (4902459)

(i18n) 共有マルチバイトのフォルダにメールを送信できない (4887205)

(i18n/i10n) ローカライズされた WebMail で、Outlook Express で作成された一部のフォルダをマージできない (4653960)

Web メールのデフォルト「送信済み」フォルダを Outlook Express で作成した「送信済みアイテム」フォルダと置き換えたいことがあります。このため、両方のクライアントから送信されたすべてのメッセージは、「送信済みアイテム」フォルダにコピーされます。この処理は、特に日本語版では簡単ではありません。

## 2 段階の回避策

1. 日本語版の `i18n.js` を編集して、Outlook Express の「送信済みアイテム」の翻訳と一致させます。

```
i18n['sent folder IE'] = '送信済みアイテム'  
fldr['Sent Items'] = '送信済みアイテム'
```

2. エンドユーザーは、最初に Outlook Express を使って Messaging Server にログインする必要があります。

## マニュアルに関する問題

この節では、Communications Server のマニュアルの既知の問題について説明します。

2 つの LDAP スキーマオブジェクトクラスの OID が正しく記述されていない (5060062)

『Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 Schema Reference』では、以下のオブジェクトクラスについて OID の記述が間違っています。

- `icsCalendarUser`
- `icsCalendarResource`

正しい OID は以下のとおりです。

- `icsCalendarUser` - 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.2.44
- `icsCalendarResource` - 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.2.45

---

# Communications Express

Sun Java™ System Communications Express バージョン 6 2004Q2 は、カレンダー、アドレス帳、およびメールの 3 つのクライアントモジュールから構成される、統合された Web ベースのコミュニケーションおよびコラボレーションクライアントを提供します。カレンダーおよびアドレス帳クライアントモジュールは、あらゆる Web コンテナに単一のアプリケーションとして配備され、統合 Web クライアント (Unified Web Client、UWC) として全体的に参照されます。Messenger Express は、Messaging Server の HTTP サービスを使用する、スタンドアロンの Web インタフェースのメールアプリケーションです。

この節の内容は次のとおりです。

- [サポートされているブラウザ](#)
- [インストールに関する注意事項](#)
- [既知の問題と制限事項](#)

## サポートされているブラウザ

Communications Express は、次のブラウザで表示できます。

- Netscape™ Communicator 6.2.x, 7
- Internet Explorer 5.x, 6.0
- Mozilla™ 1.0 以上

## インストールに関する注意事項

以下は、Communications Express が依存するサービスです。

1. **Directory Server:** Sun Java™ System Directory Server バージョン 5.2 をインストール
2. **Calendar Server:** Sun Java™ System Calendar Server バージョン 6 2004Q2 (6.1) をインストール
3. **Web コンテナ:** Sun Java™ System Web Server バージョン 6.1 SP1 と JDK バージョン 1.4.2 をインストール
4. **Messaging Server:** Sun Java™ System Messaging Server 6 2004Q2 (6.1) をインストール



## 5. Identity Server: Sun Java™ System Identity Server 2004Q2 (6.2) をインストール

---

**注** Communications Express はここに記載されているサーバーのバージョンだけでテストされているため、これらのバージョンでのみサポートされています。

---

Sun Java System Communications Express のインストールおよび設定方法については、『Sun Java™ Systems Communications Express 管理ガイド』の第1章「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

Identity Server を配備する場合の Sun Java System Communications Express の設定方法については、『Sun Java™ Systems Communications Express 管理ガイド』の第4章「シングルサインオンの実装」、および第5章「Communications Express と Identity Server の配備」を参照してください。

## 既知の問題と制限事項

ここでは、Communications Express に関する既知の問題の一覧表を示します。次の内容について説明します。

- [一般的な問題](#)
- [設定ツールの問題](#)
- [カレンダーの問題](#)
- [メールの問題](#)
- [アドレス帳の問題](#)

### 一般的な問題

ここでは、一般的に知られている問題を示します。

**バグ番号 5008104: ユーザーが認証されている場合でも、URL に完全修飾ホスト名が必要である**  
ユーザーが認証されている場合でも、URL が完全修飾ホスト名でなければ Cookie にドメイン名が設定されません。

#### 回避策

常に完全修飾ホスト名を使用してアプリケーションにアクセスします。

**バグ番号 5025449: カレンダー表示の年月日の形式が適切でない**

アジアロケールの場合、日表示では月が正しい形式になっていますが、カレンダーの日および年フィールドがアジア形式で表示されません。

## 設定ツールの問題

ここでは、設定プログラムの既知の問題および回避策の一覧表を示します。

設定後の手順については、『Sun Java™ Systems Communications Express 6 2004Q2 管理ガイド』の第1章「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

### IS SDK 統合のための Web コンテナ設定の変更がサポートされていない

設定プログラムが、Identity Server SDK 統合のための Web コンテナ設定の変更をサポートしません。

#### 回避策

Identity Server とともに提供されているツールを手動で起動して、Identity Server の Web コンテナ設定を変更します。

### Java Enterprise System Unconfigure がサポートされていない

UWC クライアントでは、UWC アプリケーションの配備取消し、設定時に作成されたファイルの削除、および、実行中に作成されたファイルの削除はできません。

#### 回避策

Communications Express の設定を取り消すには、次の手順を実行します。

1. Communications Express パッケージを削除します。たとえば、Solaris では次のように入力します。  
`pkgrm SUNWuwc`
2. ステージングディレクトリおよび配備ディレクトリを削除します。
3. Web Server または Application Server の `server.xml` ファイルから、WEBAPP エントリを削除します。

### バグ番号 4988408: 設定ツールでコンポーネントが 1 つも選択されない場合、誤ったエラーメッセージが表示される

コンポーネントが 1 つも選択されない場合、設定ツールは誤ったエラーメッセージを表示します。

エラーメッセージには、「設定するコンポーネントが選択されていません。」

「了解」をクリックし、「ディレクトリの選択」パネルに移動して別のディレクトリを指定するか、または設定を終了してください。」と表示されます。

### バグ番号 4982590: Communications Express のコンポーネントが、0 バイトと表示される

Communications Express のメールおよびカレンダーコンポーネントを表示する間、設定プログラムはコンポーネントサイズを 0 バイトと表示します。

### バグ番号 4996723: GUI 設定の入力フィールドの位置を、右揃えにするべきではない

設定ウィザードを英語以外の言語で起動した場合、フィールド名およびブラウザボタンが切り捨てられるかまたは表示されません。

#### 回避策

設定パネルのサイズを変更して、コンテンツが正しく表示されるようにします。

**バグ番号 5028906: UWC 設定プログラム : ホストエイリアスが解決されない場合、devinstall がコアをダンプする**

システムにホスト名エイリアスが設定されていないと、UWC 設定プログラムは設定プロセスを完了できません。

#### 回避策

システムに、1 つまたは複数のホスト名エイリアスが設定されていることを確認します。

UNIX システム上に 1 つまたは複数のホスト名エイリアスを設定するには、次の手順を実行します。

1. /etc/nsswitch.conf ファイルの `hosts` を次のように設定します。

```
hosts:files dns nis
```

この設定はネームサービスに対して、ホスト名とホストエイリアスの解決に使用する検索順序を示します。ネームサービスの検索順序は、`files`、`dns`、および `nis` です。

2. /etc/hosts ファイルで、使用コンピュータの IP アドレスに対して 2 つ以上のホスト名が定義されていることを確認します。

たとえば、システムの IP アドレスが `129.158.230.64` の場合、/etc/hosts ファイルに IP アドレスを次のように設定できます。

```
129.158.230.64    bugie.siroe.varrius.com  budgie
```

または

```
129.158.230.64    bugie.siroe.varrius.com  budgie  loghost
```

IP アドレス の誤った設定例:

```
129.158.230.64    budgie
```

**バグ番号 5024149: JES2 から Communication Express をインストール中に、不正なエラーメッセージが出る**

Java Enterprise System 2003Q4 1 インストーラから次のコンポーネントをインストールしたあと、JES 2 インストーラから Communication Express を選択すると Webserver 6.1 SP1 がグレー表示されます。

- Messaging Server
- Calendar Server
- Directory Server
- Administration Server
- Web Server 6.1

Web Server 6.1 SP1 が選択できない場合、コンポーネント選択パネルで「次」をクリックすると、次のような不正なエラーメッセージが表示されます。

[Sun ONE Web Server 6.1 Service Pack2, Sun ONE Application Server 7.0 Update 3]

You must select one of these in the Component Selection panel. Either one of these is required by [Sun Java System Communications Express]

このエラーメッセージは、Web Server の古いバージョンが検出され、Web Server の以前のバージョンをアンインストールし、Web Server の最新バージョンを JES2 インストーラからインストールする必要があることを意味する必要があります。

#### バグ番号 5043406: Communications Express バンドルから am\*.jar が削除される

Communication Express ログインページにアクセスすると、「サーバーエラー」ページが表示されます。

#### 回避策

Communication Express が Identity Server を使用するよう設定されている場合、次の手順を実行します。

1. `UWC-deployed-path/WEB-INF/lib` ディレクトリから `am_sdk.jar`, `am_services.jar`, `am_logging.jar` を削除します。

たとえば、`/var/opt/SUNWuwc/WEB-INF/lib` などからです。

2. Web コンテナを再起動します。

#### バグ番号 5043951: Communications Express のインストール時に、クラスローダに複数の jss3.jar があるというエラーが発生する

Communications Express または Identity Server コンソールにアクセスすると、「サーバーエラー」ページが表示されます。この問題は、Communications Express と Identity Server が同じ Web コンテナインスタンスに配備された場合に発生します。

#### 回避策

1. `UWC-deployed-path/WEB-INF/lib` ディレクトリから `jss3.jar` を削除します。

たとえば、`/var/opt/SUNWuwc/WEB-INF/lib` などからです。

2. Web コンテナを再起動します。

## カレンダーの問題

### デフォルトの予定状況フィルタに関する問題

「カレンダーオプション」ウィンドウの「デフォルトの予定状況フィルタ」は、日、週、および月のカレンダー表示で表示される予定を指定します。使用できるオプションは、受諾済み、暫定、辞退済み、および返信なしです。

予定ステータスとして「受諾済み」オプションのみを選択した場合、受諾した出席依頼のみが日、週、および月のカレンダー表示に表示されます。ただし、日、週、または月のカレンダー表示には、作成したすべての予定が常に表示されています。

「カレンダーオプション」ウィンドウでは、デフォルトで「受諾済み」と「暫定」のみが選択されています。これは、ユーザーが拒否した予定または応答していない予定が表示されないことを表します。

日、週、月、および年表示のすべての予定を表示するには、「カレンダーオプション」ウィンドウで、受諾済み、暫定、辞退済み、返信なしのすべてのオプションを選択する必要があります。

Sun Java System Calendar Express と Sun Java System Communication Express によって使用される、「週の最初の曜日」という語義が一致しない

Communications Express の Calendar Express を使用して作成されたカレンダーを表示する場合、「カレンダーオプション」ウィンドウでは翌日が「週の最初の曜日」になります。

たとえば、Calendar Express で「日曜日」を週の最初の曜日とした場合、Communications Express では「月曜日」と表示されます。すなわち、Communications Express は「月曜日」を週の最初の日だとみなします。

Communications Express と Calendar Express を排他的に使用する (一方を使用したらもう一方を決して使用しない) 場合、2 つは正常に動作します。しかし、ユーザーが Calendar Express から Communications Express に、またはその反対へと移行する場合、「週の最初の曜日」オプションに変動が見られます。これは、この特定のオプションに関して 2 つの製品で使用される語義が一致していないからです。

**バグ番号 4902650: Solaris 9 上で動作する Netscape 7.0 で、カレンダーのグリッド線が表示されない**  
Solaris 9 上で動作する Netscape 7.0 から Communications Express を起動した場合、アプリケーションでカレンダーのグリッド線が表示されません。

**バグ番号 4956450: カレンダーを検索すると、すべてのユーザーのカレンダーが返される**  
カレンダー UI から特定のカレンダー ID を持つカレンダーを検索すると、検索結果に条件と一致しないカレンダーが含まれます。

#### 回避策

カレンダーサーバー設定ファイル `ics.conf` で `service.calendarsearch.ldap = "no"` と設定し、Calendar Server を再起動します。

**バグ番号 5030757: 一部のロケール名について、ロケール代替機構が動作しない**

#### 回避策

下線を含むロケール名がサポートされている場合は、「\_」の代わりに「-」を含むリソースバンドルディレクトリを作成します。

たとえば、ロケール `en_US` をサポートする必要がある場合、`<UWC-data-dir>/domain/<domain-name>` にディレクトリ `en-US` を作成します。

**バグ番号 5019828: カレンダー UI が、カレンダー記述の html のレンダリングを行わない**  
カレンダー記述タグのすべての HTML コンテンツは、UI 内の不要なものとしてレンダリングされます。

## メールの問題

Sun Java System Messaging Server を Java Enterprise System 2003Q4 からインストールする場合、次の2つのパッチを適用します。

- 116568-51
- 116570-09

**バグ番号 5032016: UWC 内にメールタブまたはメールが表示されない**

ldap 内のユーザーエントリで、inetUserStatus および mailUserStatus が「Active」に設定されている場合、「メール」タブが表示されません。

### 回避策

inetUserStatus および mailUserStatus を「Active」に変更します。

**バグ番号 5006218: Netscape 7: メール URL に Sun のロゴが表示されない**

Netscape 7 では、ブラウザ内の URL には、アドレス帳またはカレンダーにアクセスした場合にはマストヘッドに Sun のロゴが、メールにアクセスした場合には Java アイコンが表示されます。

### 回避策

favicon.ico ファイルを \$UWCDEPLOYDIR/favicon.ico から、UWC が配備されている Web Server の docroot ディレクトリへとコピーします。

docroot の値は server.xml にあります。server.xml にある docroot エントリの例として次のものがあります。

```
<PROPERTY name="docroot" value="/opt/SUNWwbsvr/docs"/>
```

**バグ番号 5032833: メールフィルタ : メールフィルタを特定の条件で作成すると、アプリケーションエラーがスローされる**

メールフィルタを特定の条件で作成すると、次のようなエラーページがスローされます。

Application Error

com.iplanet.jato.NavigationException:Exception encountered during forward

Root cause = [java.lang.StackOverflowError]

### 回避策

サイズの大きなフィルタの作成および操作を可能にするために、Java スレッドのスタックサイズを適切に設定します。

**バグ番号 5032888: メールフィルタ : 設定が正しく保存されていない**

メールフィルタの詳細を編集モードで表示している場合、「メッセージを保存するフォルダ:」および「転送するメールアドレス:」の設定は正しく保存されません。

バグ番号 5047833: Mozilla 1.4 を使用して電子メールにアドレスを追加するとき、inputObj is null エラーを取得する

ユーザーがアドレス帳のアドレスを電子メールの「To」または「Cc」フィールドに追加するとき、「inputObj is null」という JavaScript エラーメッセージが表示されます。

このバグは、Mozilla 1.4、Netscape 7.1 でのみ報告されています。

## アドレス帳の問題

バグ番号 4995472: アドレス帳名を、defaultps/dictionary-<lang>.xml によってセッションごとにローカライズできない

このバグは、アドレス帳に最初にアクセスする時に、解決されたセッション言語とドメイン固有の defaultps/dictionary-<lang>.xml に基づいてローカライズされた値が割り当てられるために起こります。

また、「アドレス帳オプション」ページに入力した「名前」および「説明」は、「アドレス帳」タブページに表示される「現在のアドレス帳」ドロップダウンリストには表示されません。

バグ番号 5025048: いくつかの GUI がローカライズされておらず、英語のまま表示される

バグ番号 5052474: vlv\_paging=true の場合でも、アドレス帳は LDAP VLV コントロールを使用しない db\_config.properties で vlv\_paging=true と設定しても、アドレス帳は LDAP 検索時に Virtual List View コントロールを使用しません。これは、VLV インデックスが設定されている Directory 配備のパフォーマンスに影響する場合があります。

---

## 問題のレポートとフィードバックの提供方法

Sun Java System Messaging Server で問題が発生した場合は、以下の方法で Sun カスタマサポートにお問い合わせください。

- Sun ソフトウェアのサポートサービスのオンライン  
<http://www.sun.com/service/sunone/software>  
このサイトには、メンテナンスプログラムとサポート連絡先番号だけでなく、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクがあります。
- メンテナンス契約で定められた連絡先の電話番号

できるだけ確実に問題に対処できるようにするため、お問い合わせの際は以下の情報を用意してください。

- 問題の詳細 (問題が発生した状況や業務への影響など)
- マシンのタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン (問題の発生に影響をあたえている可能性のあるパッチやその他のソフトウェアなど)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

また、以下の関連グループで Sun Java System Messaging Server のトピックについてディスカッションが行われており、これを購読すると役に立つ場合があります。

<http://swforum.sun.com>

## コメントの送付方法

Sun では、マニュアルの改善に努め、ユーザーからのご意見、ご提案をお待ちしております。次の Web フォームを使用して、ご意見を Sun にお寄せください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

正式なマニュアル名と Part No. を該当するフィールドに入力してください。Part No. は 7 桁または 9 桁の数字です。この番号は、ブックやマニュアルの表紙に記載されています。たとえば、このリリースノートの Part No. は 817-7094 です。



---

# Sun が提供しているその他の情報

以下の Internet のサイトでは、Sun Java System の有用な情報を入手できます。

- Messaging Server のマニュアル  
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System のマニュアル  
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス  
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアのサポートサービス  
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよびナレッジベース  
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートとトレーニングサービス  
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者向け情報  
<http://sunonedev.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス  
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアのトレーニング  
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun のソフトウェアデータシート  
<http://wwws.sun.com/software>

---

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard

license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。